

発行/ASJ社 年間購読料 6,000円(税、送料込) 1冊1,000円(税別)

a&S JAPAN

The Professional Magazine Providing Total Security Solutions

www.asj-corp.jp Jan/Feb. 2019 no.68

50 2018
SECURITY

特集

SECURITY 50 2018

Javatel
Video Intelligence

ジャバテルのソリューション
セキュリティ
メディアストリーミング

 **どにかX[®]**

 **Genetec**
Security Center.

 **iQOO[®]**



第27回 セキュリティ・安全管理総合展

SECURITY SHOW 2019



日本のセキュリティが進化する4日間

有力セキュリティ企業180社が集結。防犯カメラからテロ対策まで、社会とビジネスを守る技術が一室に

2019年3月5日(火) - 8日(金) 10:00~17:00 (最終日は16:30まで) 東京ビッグサイト [東7・8ホール] NIKKEI MESSE

主催：日本経済新聞社

後援：警察庁、公安調査庁、(独) 情報処理推進機構、日本商工会議所、
全国商工会連合会、日本貿易振興機構(ジェトロ) (順不同)

協力：テレビ東京、日経BP社 (順不同)

入場料：3,000円 ※税込み、同時開催の全展共通、ウェブサイトの来場事前登録で無料
同時開催：JAPAN SHOP / 建築・建材展 / ライティング・フェア / リテールテックJAPAN /
Future Office Tech & Facility / フランチャイズ・ショー (3月6日から)

お問い合わせ：ハローダイヤル 03-5777-8600 (3月末までご案内)

<http://www.securityshow.jp/>

高信頼性サイバーセキュリティ



WISeNET 映像監視ソリューション

サイバーセキュリティ専門組織 S-CERT

サイバーセキュリティの専門組織であるS-CERTは、Wisenet(ワイズネット)製品に対するサイバー攻撃発生時に対抗措置を分析のうえ準備。セキュリティ上の脆弱性に速やかに対処します。(secure.cctv@hanwha.com)

サーバーハッキング検証と強力なセキュリティ政策

開発段階での外部ホワイトハッカー組織による製品へのハッキング検証工程運用とハイレベルID/パスワード政策による外部ハッキング攻撃からも安全性を確保。



クライアント

初期パスワード非提供



HTTP/HTTPS

ユーザー認証
映像データ暗号化伝送



ウェブサーバー

Backdoor Removal
(No Telnet & SSH)



アプリケーション

安心コーディング
F/W 暗号化 F/W 暗号化



データベース

データベース暗号化

Hanwha Techwin Co., Ltd.

〒13488 韓国京畿道城南市盆唐区板橋路319番路6 Tel: +81-70-7147-6755 Fax: +81-31-8018-3740

販売代理店

株式会社ティービーアイ

〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1 京橋エドグラン28F
Tel: 03.6841.8200 Fax: 03.6841.8299
www.tbeye.com

兼松サステック株式会社

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-3-2トルナーレ
Tel: 03.6631.6581 Fax: 03.6631.6639
www.ksustech.co.jp

ハンファQセルズジャパン株式会社

〒108-0014 東京都港区芝4-10-1 ハンファビル9階
Tel: 03.5441.5900 Fax: 03.5441.5920
www.wisenetjapan.com

目次

特集

SECURITY 50 2018

| | |
|----------------------------|---------|
| 第1部 AI容認派それともAI拒絶派? | 16 - 19 |
| 第2部 2018年/2019年の結果と予測 | 20 - 25 |
| 第3部 システム構築者が最も成長する業種を指摘 | 26 - 31 |
| 第4部 2018年にさらに上昇した成長 | 32 - 33 |
| 第5部 AI映像解析はルピコン川を渡った | 34 - 35 |
| 第6部 SECURITY 50 2018 ランキング | 36 - 37 |

連載

| | |
|--------------------|---------|
| 今さら聞けないアクセス・コントロール | 38 - 40 |
| よくわかるIPネットワーク | 41 - 43 |

イベント情報

展示会、プライベートショー日程

44



| | |
|------------|---------|
| IPVMダイジェスト | 8 - 11 |
| 産業ニュース | 12 - 13 |
| 新製品情報 | 14 - 15 |
| 読者の声 | 45 |

広告索引

| 広告主名 (ABC順) | 掲載ページ |
|----------------|----------|
| Hanwha Techwin | 1 |
| IDIS | 3 |
| ジャバテル | 表一、4 - 7 |
| SECUTECH 2019 | 表四 |
| 日本経済新聞社 | 表二 |

次号案内 2019年 3/4月号 (3月1日発行予定)

(誌面の都合上、変更になることがあります)

特集
空港/港湾

製品特集
データ・ストレージとその管理

連載
市場慧眼、新連載

a&s JAPAN ©ASJ合同会社 2019年 1-2月号 No.68
The Professional Magazine Providing Total Security Solutions

発行人 小森堅司 DTP サンフィール

a&s JAPANは、Messe Frankfurt New Era Media発行のa&s International、a&s Asiaをはじめとするa&s各誌の独占翻訳権を特約して発行するセキュリティ国際情報誌です。

ASJ合同会社

Advanced Security Journal LLC

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-7-1 ウィン神田ビル10階

電話：03-6206-0448 FAX：03-6206-0452

■広告に関するお問い合わせは
E-mail：komori@asj-corp.jp

■購読に関するお問い合わせは
E-mail：reader@asj-corp.jp

■記事情報提供に関するお問い合わせは
E-mail：info@asj-corp.jp

■DM代行サービスおよび電子メール配信サービス
当社では、企業の依頼によりDMまたは電子メールで情報をお届けすることがあります。これらのサービスでは、読者の皆様の個人情報を当該企業には一切公開しておりません。

Surveillance installation still too slow?



FASTER INSTALLS. LESS WORK.

IDISの **Direct IP**[®] は迅速なインストールによって時間とコストを効率的に削減します

実用的なプラグアンドプレイ総合ソリューションはカメラ、NVR、ネットワークにて相互性と優れた性能を提供します
直感的な操作が可能なレコーダーや監視ソフトはトレーニングを最小限に抑えることが可能なため、高い利益率と顧客
満足を維持しながら簡単に設置することが可能です

商品に関するお問い合わせは
IDIS Co.,Ltd 日本正規代理店 株式会社セキュア secureinc.co.jp

東京本社 | 東京都新宿区西新宿2丁目6-1 新宿住友ビル 20F
TEL.03-6911-0660 FAX.03-6911-0664

 **IDIS**[®]
One Solution. One Company.

SÉCURE^司

メディアストリーミングどこカメDocokame

映像配信はビジネスツールとしての決定打

まもなくはじまる、5Gインフラにおけるキラーコンテンツは映像と音声です。

映像配信に求められる要件

- 1)徹底的にセキュアである事: 100%ブラウザだけで利用可能。
- 2)低遅延のライブ配信: WebRTCでは50msecを実現。
- 3)あらゆるデバイスで利用可能: Chrome Safari Edge Firefox Opera IE

どこカメのアドバンテージ

- 1)WebRTCゲートウェイ: WebRTCはPCやスマートフォンのカメラとマイクをサポート。テレカンファレンスなどに应用されています。どこカメならあらゆる監視カメラをWebRTCにストリーミングします。G.711音声も変換なしにご利用頂けます。
- 2)クロスプラットフォーム: WebRTCなら全デバイスをサポートし、ピュア・クライアントサーバーで稼働します。下記サイトをご覧ください。

<https://www.docokame.com/>

- 3)タイムシフトプレイバック: ライブ中に最大720分まで自在にアクセス可能はビジネスを加速します。



- 4)プレイリスト配信: テレビの番組表をイメージしてください。ライブも録画コンテンツも自在にスケジュール配信可能です。
- 5)HLSオンデマンド: 専用のオンデマンドサーバー不要で高性能なオンデマンド配信をサポートします。勿論、全デバイスに対応します。

導入と運用

- 1)オンプレミス: ジャバテルのアプライアンスを導入して運用、完全買い取り制
- 2)プライベートクラウド: AWS Google Azure or VPSランニングコストは初期費用とサブスクリプションのみ。
- 3)VPSクラウド: ランニングコストは初期費用とサブスクリプションのみ。

全ての機能とソリューションは下記サイトをご覧ください。

<https://1.dokokame.biz/dvms/>

統一セキュリティ・プラットフォーム Genetec Security Center

2001年に日本に紹介してから18年、そのポテンシャルと圧倒的実績は確固たる信頼と品質を証明しています。

監視カメラ、アクセスコントロール、画像分析、侵入監視、インターフォン統合、モバイルアクセス、ビル管理統合、生産管理統合まで多数の実績を導入コンサルから稼働までご相談く



ださい。ジャバテルはGenetec社正規代理店です。

インテリジェント・ビデオ・セキュリティ エイロクeiROKU

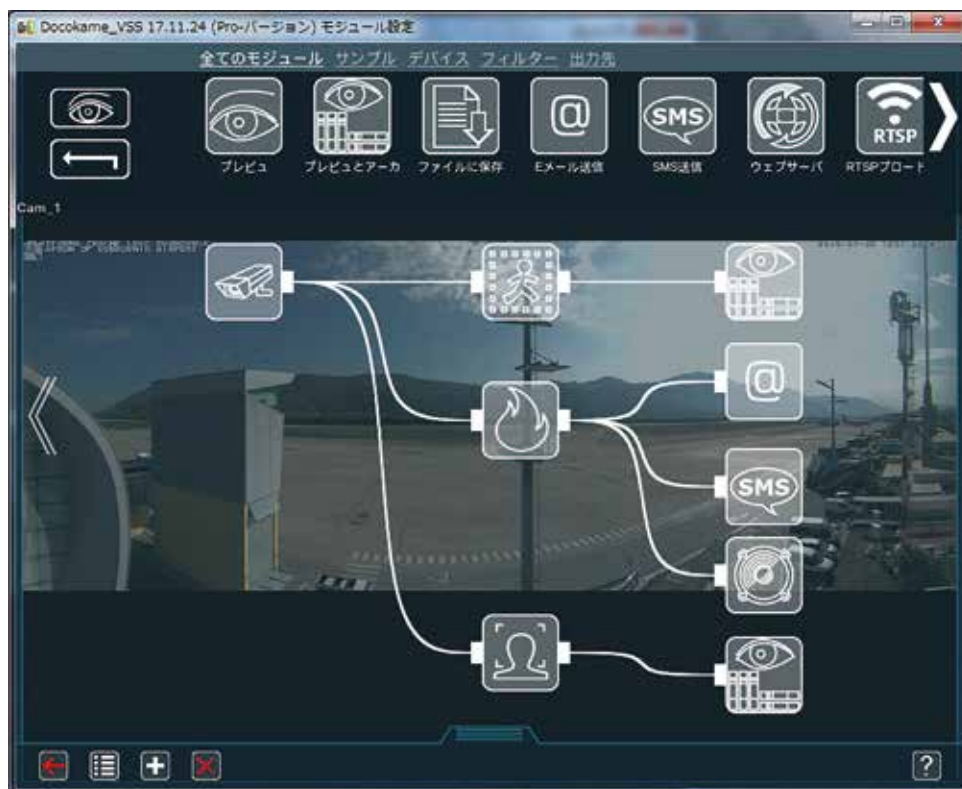
ビデオ監視ソフトウェアはエイロクで幼稚なほど簡単になります!

子供用ブロック玩具に触発されたエイロクビデオ監視ソフト



ウェアは、機能ブロックを組み合わせることでカメラシステムを構築することを可能にします。遊びに行き、ビデオ監視を楽しんでください。

マシンではなく、ユーザーのために作成された革新的で真にユーザーフレンドリーなインターフェース。家庭や企業の両方に最適です。すべての通常の機能そしてそれ以上。



組込NVRとの徹底的な違い。

- 1) 組込NVRは組込みLinuxで構成されたNVR専用機です。VSエイロクはWindows Linux Android MACで動作するクライアントサーバーアプリケーションです。
- 2) 組込NVRは拡張性が最大の弱点となります。増設には機器の買い替えが必要となります。VSエイロクは分散サーバー設計であり、ライセンス追加とサーバー拡張で対応します。
- 3) 組込NVRソフトウェアは特定の社に依存しています。そして悪意のバックドアは秘かに仕込まれても誰も気が付きませ

ん。VSエイロクはあらゆる産業に浸透している有名で常に監査されているOS下で動作するソフトウェアです。

まるでおもちゃのブロックを連結するように インプットモジュール

IPカメラエンコーダー/ USBカメラ/ PCのスクリーンキャプ

チャ/ 他に設置した@VSSからのビデオ/ FTP受信/ HTTP受信

フィルターモジュールインプットされた映像、データ进行处理。赤はProのみ

日の検出/ モーション検知(インテリジェント)/ うろつき検知/ オブジェクト検知/ 放棄検知/ スケジューラー/ マーキング(オーバーレイ)/ 煙検知/ 音響検知/ 顔検知(顔認識)/ システムの問題検知/ 画像サイズ変更/ 画像回転/ クロッピング/ 自動追尾/ ナンバー読取/ デワーピング/ ピープルカウンター/ クロスライン検知/ プライバシーマスキング/ ボタンスイッチャー/ ユニター/ リレースイッチ/ 状態/ HTTPマーキング/ HTTPスイッチャー

アウトプットモジュール赤はProのみ

アラーム音/ アプリケーションラン

ナー/ ポップアップウィンドウ(クライアント内)/ SMS送信/ 電子メールを送信する/ ファイルに保存/ FTPアップロード/ ANPR送信者からFTPへ/ HTTPリクエスト送信者/ 他のDocokame@VSSへのHTTPアップロード/ RTSPブロードキャスト/ Webサーバー/ アーカイブ

最新トピック

OpenALPRIによる日本車ナンバープレート読取をサポート

詳細は<https://nvr.jp>

ビジネスパートナー募集しています。

Javatel
Video Intelligence

株式会社ジャバテル <https://javatel.co.jp>

Call 06-6354-0100 Fax 06-6136-1155 Mail to info@javatel.co.jp

フリーダイヤル 0120-961-891

Genetec NVRアプライアンス 16カメラ単位で統一的増設に対応。
これ一台で今すぐ、最高峰のビデオ監視とアクセスコントロール。

上位モデルSV-300E SV-1000Eを用意。さらに画像分析アプライアンスSVAシリーズ



Genetec
Security Center.

入退管理も含んだ仕様でこの価格、上位モデルも豊富に用意しています。



Security Center
Omnicast.



Security Center
Synergis.

Streamvault SV-100E



サイズ H36mm D178mm W182mm

All-in-one security appliance by Windows 10 IoT

16カメラ / 16カードリーダー ライセンス含むプリインストール

P/N SV-100E-2T-I3 256GB M.2 SSD / 2TB HDD ジャバテル価格334,000円

P/N SV-100E-1T-I3 256GB M.2 SSD / 1TB HDD ジャバテル価格325,400円

P/NSV-100E-2T-I3-ARC 256GB M.2 SSD / 2TB HDD ジャバテル価格264,200円

P/N SV-100E-1T-I3-ARC 256GB M.2 SSD / 2TB HDD ジャバテル価格255,700円

詳細は <https://security-center.tokyo/> <https://nvr.jp/>

Javatel



アプライアンス



サイズ H51mm D115mm W111mm

**エイ
ロク**

eiROKU value MICRO-ei

All-in-one eiROKU appliance by Windows 10 IoT

4カメラLite ライセンス含むプリインストール

P/N MIC-ei-5G-4L 500GB HDD 希望小売価格 98,600円

P/N MIC-ei-1T-4L 1TB HDD 希望小売価格 101,400円

8カメラStandard ライセンス含むプリインストール

P/N MIC-ei-1T-8S 1TB HDD 希望小売価格 118,300円

P/N MIC-ei-2T-8S 2TB HDD 希望小売価格 124,200円



カメラライ
センスの更
新、追加、
サーバーの
追加による
スケーラビ
リティを
保証。

eiROKU value MINI-ei

All-in-one eiROKU appliance by Windows 10 IoT

8カメラStandard 1年更新権利ライセンス含むプリインストール

P/N MIN-ei-1T-3-8S 120GB M.2 SSD / 1TB HDD 希望小売価格174,300円

P/N MIN-ei-2T-3-8S 120GB M.2 SSD / 2TB HDD 希望小売価格180,200円

16カメラStandard 1年更新権利ライセンス含むプリインストール

P/N MIN-ei-2T-3-16S 120GB M.2 SSD / 2TB HDD 希望小売価格204,400円

P/N MIN-ei-4T-3-16S 120GB M.2 SSD / 4TB HDD 希望小売価格226,900円



サイズ H155mm D155mm W80mm
Core i7 6C/12Tまで対応モデル有り。

エイロク ソフトウェアライセンス価格

P/N eiROKU-S-1Y Standard PKG 1年間更新権利付きMSRP 3,300円

P/N eiROKU-S-3Y Standard PKG 3年間更新権利付きMSRP 4,900円

P/N eiROKU-P-1Y Pro PKG 1年間更新権利付きMSRP 9,700円

P/N eiROKU-P-3Y Pro PKG 3年間更新権利付きMSRP 15,500円

P/N eiROKU-S2P-UP StandardからPro更新MSRP 7,700円

P/N eiROKU-S-UP-1Y Standard PKG 1年間更新権利追加MSRP 1,250円

P/N eiROKU-S-UP-3Y Standard PKG 3年間更新権利追加MSRP 1,790円

P/N eiROKU-P-UP-1Y Pro PKG 1年間更新権利追加MSRP 3,950円

P/N eiROKU-P-UP-3Y Pro PKG 3年間更新権利追加MSRP 6,290円

ライセンス数1以上2,4,8,16,32,64,128,256毎に単価が下がります。

詳細は <https://nvr.jp/>

WebRTC / HTML5 MSE / HLS / Flash / UMS / MPEG2-TS プロトコル同時混合対応

オンプレミス: Docokameアプライアンス 自営サーバー 最小のサーバー構成 概算16万から
VPSクラウド: 回線コスト定額で利用可能 1カメラ月額1000円(50GB/日)から初期費用別途
プライベートクラウド: AWS AZURE Googleでコンサルから設定運用保守までサポート

映像音声配信を利用する場合のあらゆるニーズ実現できる、Windowsベースのサーバーソフトウェアです。アドバンテージ: 徹底された低遅延、タイムシフトと多彩なプロトコル同時混合サポート。

テレワークリモートミーティング Web会議 Webコールセンター ウェブセミナー フィールドメンテナンス支援 サイネージ受付巡回 警備 交通カメラ配信 工場見える化 店舗見える化 議会中継 工場見える化……

商用デモサイト
 スキー場からのライブ配信
 推奨ブラウザ
 Chrome, Safari, Edge, Firefox

<http://www.kk-mikami.co.jp/web-camera/index.html>

Javatel Encoder/Decoder and etc. ソリューション



Cellinx HD-SDIエンコーダ
 P/N URH900A
ミカミプロトコル・ネイティブ・サポートでPTZの位置の絶対値制御、読取に対応。
 希望小売価格 ¥108,000円
 Genetec API ONVIF



HDMIエンコーダ
 P/N ION-E100-HD
 希望小売価格 ¥128,000円
 Genetec API ONVIF



HDMIエンコーダ
 P/N FB200
 希望小売価格 ¥78,000円
 PTZシリアル無し、RTSP RTMP

あらゆるビデオシグナル (RGB VGA DVI HDMI DP HD-SDI) をシームレスにサポートはジャバテルにご用命ください。 Blackmagic Design / Gefen スケイラーコンバーター シグナルコンバータとの組み合わせで実現します。



HDMI/BNC 出力 デコーダ
 P/N ION-R100
 希望小売価格 ¥128,000円
 Genetec API ONVIF

HDMI出力デコーダ
 最大16分割表示
 P/N ION-R100S
 希望小売価格 Call
 Genetec API ONVIF



HDMI/DP (via USB-C) 出力デコーダ
 P/NION-R200
 最大32分割表示
 希望小売価格Call
 Genetec API ONVIF



世界初の実装です。高精度温度センサー
FLIR C3 カメラソリューション
 USB接続で**設定温度アラーム**を Security Centerに通知します。
 希望小売価格 Call

Javatelなら貴方のやり方完全支援、諦めないでご相談ください。

ビジネスパートナー募集しています。

IPVM URL: <https://ipvm.com/>

IPVMは、セキュリティと映像監視に関する世界有数の情報提供サイト。

【特徴】

- 5,000件超のセキュリティ技術に関する報告
- 550件超のセキュリティおよび主要映像監視製品のテスト
- 豊富なソフトウェア・ツールによる評価とテスト
- 映像監視関係者向け教育と講座用情報の提供。
- メンバーからのコメントを含めた活発なコミュニティの形成

【有料メンバー】

- 1万人以上の世界100カ国のセキュリティ業界の一流の幹部、デザイナー、技術者

【スタッフ】

- エンジニア、開発者、セキュリティ・システム構築者、サポート・マネージャなど総勢11名

【掲載許諾】

本誌ではIPVMの許諾を得て、ウェブ上で無料閲覧することができる内容だけを掲載しています。閲覧するにはIPVMとの有料メンバー契約が必要です。IPVMに掲載されている内容は、一切無断転載です。

最も残念な製品

(IPVMチーム 著)

<https://ipvm.com/reports/worst>

IPVMが有料で調査協力を依頼しているセキュリティ・システム構築者は定期的に高い評価と残念な製品をIPVMに報告して、製品ごとに詳細なコメントを記載している。コメント内容は匿名で送られてくるため、指摘内容を共有することができる。

※販売促進用途の禁止

他のセキュリティ業界のランキングとは異なり、これらの結果が信頼性を保証するために、IPVMはいかなるメーカーに対しても掲載結果の使用を一切禁止している。使用している事例があった場合abuse@ipvm.comにご一報いただきたい。

2018「最も残念」ランキング

●カメラ部門

<https://ipvm.com/reports/worst-cameras-2018>

●NVR/VMS部門

<https://ipvm.com/reports/worst-vms-2018>

●アクセス・コントロール部門

<https://ipvm.com/reports/worst-access-control-2018>

●メーカーのテック・サポート部門

<https://ipvm.com/reports/worst-tech-18>

中国政府、HIKVISION社の保有株式を増加

(チャールズ・ロレット 著)

<https://ipvm.com/reports/cetc-increase>

急激な株価下落の中、中国政府は映像監視大手のHikvision



社の株式保有を増やしている。これに対して米国政府は制裁を検討し、HIKVISION社の社長は制裁に反発している。

<https://ipvm.com/reports/trump-consider-sanction>

<https://ipvm.com/reports/hik-ai-us>

本稿では、これらの動向と中国政府による映像監視への影響に関する精査を紹介し、この戦略がいかに持続可能であるかを検証している。

顔検知のテスト

(IPVMチーム 著)

<https://ipvm.com/reports/face-det>

映像監視メーカー各社が顔検出および認識を続々と提供してい



る。顔検出は、画像や映像内の顔を検出するが、誰の顔であるかは検出しない。しかし、顔認識システムが各顔の同一性を判定しようと試みる場合でも、まず顔検出に依存する。つまり、システムは、対象物が顔であることを検出するまで顔を認識することはできない。すなわち、顔検出は顔認識システムの前提条件となる。

顔検出の実行には、HAARカスケード、HOG、CNN/深層学習の3つの基本的な測定方法がある。その性能は3つの基本的な測定基準によって異なる。

- 顔検出の精度: 明るい場面でカメラを直接見ている顔を検出するのは「簡単」だが、精度は人が頭を下、左、右などと、どのように傾けたかによって大きく異なる。また影、暗さ、ノイズなど場面の照明条件によっても異なる。
- 顔を検出するための負荷の計算 - 画面内にある対象物、また対象物が木や車、猫やボールなどでなく、顔であるかどうかを見つけて判断することは非常に計算量の多い作業だ。IPカメラやNVRなど監視装置の処理能力に大きな制約がある。
- 使用するチップやハードウェア: インテル社製 (i5/i7、Movidius 2&X、FPGA)、NVIDIA社製GPUなど

アーカス社クラウドVMSのテスト

(シーン・パットン 著)

<https://ipvm.com/reports/arcules-vms-2018>

アーカス社はマイルストーン社とキヤノン社が出資している企業でその業務は大きな賭け事だ。では、アーカス・クラウドVMSはどれほど優れているのか? 同社が同製品の市販を開始したので、IPVMでは早速テストを行なった。



本テストでは、下記に関するアーカス製品の主な特長と主な弱点を調べる。

- マイルストーン社XProtectとの比較
- 人と車の検知分析

- 低遅延クラウド・ストリーミング
- 映像証拠事例管理
- 誤検知の映像解析の通知
- 限定アラーム通知
- 独自フォーマットのサポート/映像ウォーターマーク
- PTZサポート
- サードパーティ統合
- ゲートウェイ・アプライアンスの提供/サードパーティ製ハードウェアのサポート
- ソフトウェアの更新
- ダイレクト・ドライバとONVIFカメラのサポート
- 価格
- Eagle Eyeおよびジェネテック社Stratocastとの比較
- ロードマップの機能

新疆地区監視案件における

Dahua社関与の証拠

(チャールズ・ロレット 著)

<https://ipvm.com/reports/dahua-xinjiang>

| Name | Year | Amount (million USD) | Winner |
|---|------|------------------------|------------------|
| Safe County in Yarkant County | 2017 | 606 | ahua |
| Shilazi Safe City | 2016 | 94 | ahua |
| Qiemo Safe County | 2017 | 81 | ahua 中国电子 |
| Hotan County Public Security Checkpoint | 2017 | 40 | ahua |
| Gira County Smart City | 2016 | 30 | ahua |
| Yiqi County Safe City | 2017 | 30 | ahua |
| TOTAL | | ~\$ 941 Million | |

IPVMは、中国新疆地区における映像監視の政府案件について、Dahua社の活動について新たな詳細情報を追記する。同社は、新疆における5件の大規模政府監視案件で約10億ドルを獲得している。

Hanwha テックウィン社製Lシリーズをテスト

(IPVMチーム 著)

<https://ipvm.com/reports/hanwha-l-series>

Hanwhaテックウィン社の最低価格帯IPカメラのLシリーズをDahua社とHikvision社と対抗して発売した。IPVMではLシリーズ・モデルである屋内ドーム型カメラLND-6011Rを購入し、ア



クスリス社M30およびHanwhaテックウィン社の既存の低価格モデルWisenet Qと比較した。

VMSライブ・モニタリング対決

(シーン・バットン 著)

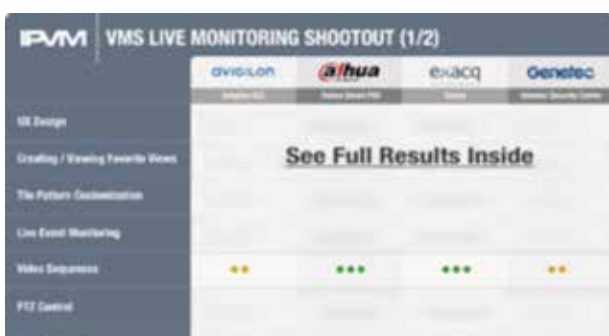
<https://ipvm.com/reports/vms-shoot-live-mon-18>

ライブ・モニタリングは、大半のユーザがVMS使用時に最初に行なう、最も一般的な作業だ。どの製品が最善か残念か、つまりどの製品が最も多くの機能と性能を発揮しているか、あるいはどの製品が残念な機能と性能しか発揮していないか？

Avigilon社、Dahua社、エグザック社、ジェネテック社、Hanwhaテックウィン社、Hikvision社、マイルストーン社、ネットワーク・オプティクス社の8社をテストした。



このテストでは、13項目について各VMSを評価し、「悪い/平均的/良い」の3段階で評価した。



「2019年映像監視産業ガイド」好評配布中

(IPVMチーム 著)

<https://ipvm.com/reports/guide-2019>

「IPVM 2019年映像監視産業ガイド」は、300ページにわたり映像監視市場の重要な出来事と将来の展望を解説している年度版ガイドで、現在配布中です。有料メンバーは電子メールで送信されるPDF版を入手することができます。



本年度版のIPVMガイドは業界内の傾向や潮流そして問題点を提起する決定版と言える。

Huawei Hisilicon社製品は既に数千万台のIoT機器で電力を供給

(IPVMチーム 著)

<https://ipvm.com/reports/huawei-hisilicon>

Huawei Hisilicon社製半導体は、少なくとも数千万台IPカメラや監視レコーダなどのIoT機器で電力を供給している。これは、監視産業界では大半のユーザや関係者に知られていない事実だ。



Huawei社への懸念が高まる中、IPVMは、ハネウェル社やパナソニック社そしてアクシス社などの提供している低価格モデルにおいて、開示なしで使用されている同社製半導体の役割とリスクを調査している。

ネットワーク・ケーブル対決

(IPVMチーム 著)

<https://ipvm.com/reports/net-cable-shootout>

あらゆるIPカメラを設置する上でUTPケーブルが必要だ。では、ネット販売されている一般的なケーブルと、性能向上や人件費削減を謳っている有名ブランドのケーブルとでは、どの程度の違いがあるのか？

今回の調査用に6社から12箱のCat 5eおよびCat 6のケーブ



ルを購入して複数本を接続し、フルーク社製DSX-5000ケーブル認証装置でテストした。対象製品は下記の通り。

- ベルデン社製Cat 5e/Cat 6
- コムスコープ社製Cat 5e/Cat 6
- Hikvision社製DS-1LN5EU Cat 5e/DS-1LN6U Cat 6
- ハネウェル社製5078 Cat 5e/6360 Cat 6
- ネイヴポイント社製銅被覆アルミニウムCat 5e/Cat 6
- ウィンディ・シティ・ワイヤ社製8665619 Cat 5e / 775609 Cat 6

今回下記の項目を設定した。

| IPVM | NETWORK CABLE SHOOTOUT RANKINGS |
|----------|--|
| BEST | See Results Inside |
| NUMBER 1 | Easy to pull Easy to strip Pull through box Cable labels included Inventory control features |
| AVERAGE | Easy to pull Easy to strip Pull through box Category compliant Reduced bedspread And fewer ease of use features |
| WORST | Failed Cat 5e/6 test at all distances tested Difficult to strip Easy to deform jacket |

- 「悪い/平均的/良い」?
- 認証テストに合格したか?
- 問題点は何か?
- 測定数値と規格値との差は?
- 固体銅と銅被膜アルミニウムとの比較は?
- 箱からケーブルを引っ張るのは簡単でしたか?
- ケーブル外被の柔軟性は?
- ケーブル外被の剥がし具合は?
- ねじれたり曲げたりしたケーブルの剛性は?
- ケーブルボックスの機能と使いやすさは?
- UL耐火試験やETL耐火試験の認証が記載されているか?
- 各ケーブルの生産国はどこか?
- 価格は?

8MP/4K固定レンズ・カメラ対決

(IPVMチーム 著)

<https://ipvm.com/reports/8mp-fixed-shootout>

8MP/4K固定レンズ・モデルは現在低価格製品としては一般的で、ほぼ全ての中国ブランドとそのOEM製品で現在複数のオプションを提供している。どの固定レンズの8MP/4Kモデルが最高の性能を発揮し、新世代の4MPモデルとどのように比較されるかを確認するために、5つのモデルを購入してテストした。

- Dahua社製N84CG54
- Hikvision社製DS-2CD2383G0-I
- Hikvision社製DS-2CD2385FWD-I
- TVT社製TD-9482E2
- Uniview社製IPC3618SR3-DPFXM



Qognify(コグニファイ)社、OnSSI社を買収

(ジョン・ホノヴィッチ 著)

<https://ipvm.com/reports/qognify-onssi>

VMS/PSIM企業のQognify社は、2015年にVMS企業のSeetec社を買収したVMS企業のOnSSI社を買収した。

同社CEOスティーヴ・シャイン氏はIPVMに、同社がベンチャー投資企業バッテリー・ヴェンチャ社の支援を受けて合併した企業の買収と今後の展望について語った。今回IPVMは同氏の展望を入手し、組み合わせのための重要な詳細と注目すべき課題を調べる。



ウエスタンデジタル社、ブランド・ポートフォリオを変更

同社は、SSD、HDD、フラッシュ・デバイス、さらにプラットフォームやシステムも含めたコマーシャル製品ならびにエンタープライズ製品ブランドを移管した。これに伴い、TegileやHGSTブランド製品、またSanDiskやWDブランド製品の一部がWestern Digitalブランドに今後順次置き換わることになる。



■移管されるブランド

- Ultrastar® ドライブ、サーバ、プラットフォームなどのHGST製品、およびActiveScale™ システム
- SanDiskコマーシャル向け組み込みフラッシュドライブ、パーティカル・アプリケーション向けSD/microSDカードおよびUSBカード

- SanDiskエンタープライズ向けSSD
- Tegil IntelliFlashエンタープライズ向けフラッシュ・アレイ
- WD Blue®, WD Black、WD Gold、WD Green、WD Purple、WD Redシリーズのハード・ドライブ

■変更のないブランド

個人向け製品の以下のブランドは従来から変更はない。

- **SanDiskブランド**
SD/microSDカード、iXpandフラッシュ・ドライブ、ポータブルSSDおよびUSBフラッシュドライブなど
- **WDブランド**
My Bookシリーズ、My Cloudシリーズ、My Passportシリーズ、WD Elementsシリーズなど
- **G-Technology™ ブランド**
G-Driveシリーズ、G-RAIDシリーズ、G-SPEED Shuttleシリーズなど
- UpThereおよびそのサブブランドであるUpThere Homeアプリケーション

VIVOTEK社、Amazon Kinesisビデオ・ストリームとVIVOTEK製品との統合を発表



今回の発表で、同社製46機種のネットワークカメラが、Amazon Kinesisビデオ・ストリームおよびAmazon Web Services(AWS)のInternet of Things (IoT) Camera Connector Quick Start とネイティブに統合が可能となった。

Amazon Kinesis Video StreamsとAWS IoTを組み合わせることで、VIVOTEK製カメラのユーザは、VIVOTEK製カメラの検出、プロビジョニングおよび接続を自動化する新しいソリュー

ションであるAWS IoT Camera Connector Quick Startを活用できる。また、ユーザのAWSアカウントにストリーミング・ビデオ・コンテンツを送信することができる。VIVOTEKユーザは、この新しいソリューションを使用して、カメラをAWSに迅速かつ安全に接続し、様々な機械学習サービスを使用してストリーミング・ビデオ・コンテンツを保存や索引付け、再生や分析を行うことが可能となった。

同社では今回発表した46機種に引き続き、2019年にもVIVOTEK製カメラの対応を予定している。

ジェムアルト、顔認証による搭乗手続きをロサンゼルス国際空港で試行開始



同社は、ロサンゼルス国際空港(LAX)のターミナル4で、搭乗時に生体認証を利用することによって旅客の利便性と安全性を高めるための試行プログラムを、大手航空会社と共同で実施すると発表した。この試験目的は、顔認識により乗客の満足度が搭乗券より高まるか、また米国CBP(税関・国境警備局)の出国要件を満たすかの確認。

LAXでの試行プログラムは、搭乗手続きカウンターにハードウェア設備を追加する必要がなく、狭い設置スペースにも、また将来の変更にも柔軟に対応できる。乗客がゲートに近づくと、米国CBPの旅客認証サービスによる顔認証を行うためのカメラとコンピュータ画面を使い、搭乗を承認する。キャプチャされた乗客の画像は認証後にシステムから消去することで、プライバシーを保護する。

シマンテック、サイバー攻撃から重要なインフラを保護するニューラル・ネットワークを発表

今回発表した製品は、業界初となるニューラル・ネットワークを統合したUSBスキャンング・ステーションである「Industrial Control System Protection (ICSP) Neural」。「ICSP Neural」は、サイバー攻撃によるオペレーショナル・テクノロジー(OT:制御系システム)への壊滅的な物理被害から企業の重要なインフラを保護する。

「ICSP Neural」は人工知能(AI)を利用してUSB上のマルウェアを検知し保護する能力を強化することで、IoTとOT環境への既知および未知の攻撃を防ぐ。「ICSP Neural」ステーションはUSBをスキャンし、マルウェアを検知・除去し、デバイスを無害化する。

「ICSP Neural」は、幅広いOTとIoTデバイス、システムをサポートしている。5MB未満の容量を使ってスキャンされてい

ないUSBの使用を防止するオプションもあり、Windows XPからWindows 10までのOSに導入可能(Linuxは、2019年からサポート予定)。

統合サイバー防御戦略(ICDP)の一部である「ICSP Neural」は、ホワイトリスト・モードや、管理対象機器またはスタンドアロン器の両方で使えるメモリ・エクスプロイト緩和機能が搭載された、柔軟で小型のビヘイビア・セキュリティ・エンジンである、シマンテック製「Critical System Protection (CSP)」ソフトウェア(最新版)を補完するもの。CSP 8.0は、インターネット接続が不要なポリシーベース・アプローチのエンド・ポイント・セキュリティで、従来のOS上でも既知および未知のゼロデイエクスプロイトや攻撃からデバイスを保護する。

政府、中央省庁の情報通信機器の調達に関する指針を発表

今回発表した対象は、通信回線装置やサーバ、端末など9項目が対象。価格をもとに選んでいた調達先に関し、安全保障上の危険性を一段と考慮し、2019年4月以降の調達に適用する。これを踏まえ、2019年1月から民間事業者にも調達しないよう求める。

米政府はファーウェイ製品などを經由して軍事情報が盗み出されていると分析し、8月に成立した19年度国防権限法(NDAA2019)で政府機関での製品使用などを禁じる方針。日本側が新指針を策定したのも、こうした米国の動きを踏まえたものだ。

今回、政府がこうした通信機器のリスク排除を民間にも広げるのは重要インフラ業者のシステムが脅威にさらされたときの被害規模が大きいと判断したため。電力会社のシステムが悪意のあるプログラムにより停止すれば電力供給が滞り、経済活動が止まりかねない。鉄道や航空といった交通網や医療機関が混乱すれば国民生活に甚大な影響を与える。

政府は2019年1月にサイバーセキュリティ戦略本部のもので

民間の重要インフラ業者らを集めた「重要インフラ専門調査会」を開く。電気事業連合会や日本水道協会、銀行、証券、保険各業界などの代表者に新指針の内容を説明し、安保上の危険性がある通信機器を調達しないよう求める。

ただ、政府が民間企業の調達先を指示したりすれば、過剰な民間介入と指摘されかねない。政府は重要インフラに対してあくまでも協力の要請や注意喚起という形式をとることで、取引停止などを強制するものではないとの立場をとる。

■対象とする政府機関

内閣官房、内閣法制局、人事院、内閣府、宮内庁、公正取引委員会、個人情報保護委員会、警察庁、金融庁、消費者庁、復興庁、総務省、法務省、外務省、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、防衛省、会計検査院

■出典URL:

https://www.nisc.go.jp/active/general/pdf/shotatsu_moshiawase.pdf

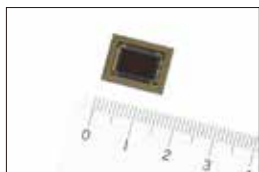
エリック・フラトン氏、VMS業界に復帰しOpenEye社に参加

同氏は長年にわたりマイルストーン・システムズ社でCSOとして活動し、XProtectを世界的に最も広く知られたVMSに盛り上げた。その後2014年にVICON社に転じてCEOに就任し、2015年

までの2年間活動した後、引退して自己のワイナリーを運営していた。そして、2019年から再びVMS業界に復帰して、OpenEye社取締役役に就任した。OpenEye社の今後の動向に注目だ。

ソニー、車載カメラ向け1/1.55型有効540万画素CMOSイメージ・センサを商品化

本製品はCMOSイメージ・センサ『IMX490』で、HDR機能とLEDフリッカーの抑制機能の同時利用を可能にしたイメージ・センサとして、業界最多となる有効540万画素を実現している。これにより、従来と同等の分解能を維持しつつ、より広い画角での撮影が可能となり、従来よりも広い範囲の障害物や標識、信号機といった交通環境を認識することができる。



また、独自の画素構造と露光方法により飽和照度を改善したことで、HDR機能とLEDフリッカーの抑制機能の同時利用時に、従来比約3倍となる120dBの広いダイナミ

ックレンジを実現した。10万ルクスの太陽光が、明るい色の前走車等に直接当たる条件下でも白飛びを抑制し、またトンネルの出入口などの明暗差の大きい道路環境においても、被写体をより正確に捕捉することができる。

さらに、この独自の方式は、一般的なHDR技術で生じていた動く被写体を撮影する際に発生するノイズ「モーションアーティファクト」を防ぐことができる。これらに加えて、従来に比べて感度特性を約15%改善し、月明かりに相当する低照度0.1ルクスの環境下においても歩行者や障害物の認識能力向上に寄与する。

※IMX490と有効200万画素相当のCMOSイメージセンサーのサンプル動画との比較映像 <https://youtu.be/zycALZlz-Bc>

IDIS社製2MP IRドームカメラ DC-D4213WRX, DC-D4223WRX, DC-D4233WRX, DC-D4233HRX

■製品概要

- ・ DC-D4213WRX : 電動バリフォーカルレンズ(f=2.8~4.0mm), IR LED (距離:20m)
- ・ DC-D4223WRX : 電動バリフォーカルレンズ(f=2.8~12mm), IR LED (距離:30m)
- ・ DC-D4233WRX : 電動バリフォーカルレンズ(f=2.8~12mm), IR LED (距離:30m)
- ・ DC-D4233HRX : 電動バリフォーカルレンズ(f=2.8~12mm), IR LED (距離:30m)

■主な特長

- ・ ヒーター内蔵
- ・ DirectIP NVRによる簡単なインストール
- ・ Full HD (1080p) 解像度

- ・ マイクロSD/SDHC/SDXC
- ・ 双方向オーディオ
- ・ アラーム・イン/アウト
- ・ IK10/IP67対応
- ・ PoE (IEEE 802.3af クラス3)、12V DC
- ・ デイ/ナイト機能(ICR)
- ・ トゥルーパー・ダイナミック・レンジ(WDR)
- ・ 低照度エンハンサ
- ・ 設置用の3軸機械設計
- ・ ONVIFをサポート



*屋内用モデルはDC-D4213RX, DC-D4223RX, DC-D4233RX

■問い合わせ先 株式会社セキュア

URL: secureinc.co.jp TEL: 03-6911-0660

アクロニクス社、Acronis True Image 2019 Cyber Protectionを発売

今回発表した「Acronis True Image 2019 Cyber Protection」は、個人向けバックアップ・ソフト。

■主な特長

- クリプトマイニングブロッカー
クリプトマイニング・マルウェアをリアルタイムで検知・遮断してシステム・リソースの乗っ取りやコンピュータの性能低下を防止
- Office 365のバックアップ
Office 365アカウントをAcronis Cloudに直接バックアップし

て、OutlookのメールボックスとOneDriveのコンテンツを最新の脅威から保護(AdvancedおよびPremium版のみ)

- Acronis Survival Kit
ブートメディアとマシン全体やシステム・パーティションのバックアップデータを1台の外付けドライブに格納できるオール・イン・ワン型のリカバリ・ツール

■対応OS・・indowsPC、MAC、iOS、Android

■<https://www.acronis.com/ja-jp/personal/computer-backup/>

店舗プランニング、Suprema社製入退室管理システム製品を発売

【生体認証コントローラ CoreStation(CS-40)】



■特長

- 集中生体認証によるアクセス・コントロール
・ロック、センサ、RTEおよびアラーム・デバイスをサポート
 - 最大50万人のユーザ(100万の指紋テンプレート)のキャパシティ
 - RFカード500,000個/イベントログ5,000,000個
 - 最大400,000件/秒の高速な指紋照合
 - セキュリティの向上
 - ・ドア・リーダーへのイーサネット接続なし
 - ・ドア・リーダーにデータ・ストレージなし
 - ・サーバとCoreStation(TLS 1.2)間のセキュリティ保護された通信
 - システムの柔軟性とスケーラビリティ
 - ・拡張モジュール(DM-20)で最大132のアクセスポイントを制御
 - ・エレベータ制御(OM-120)
 - ・OSDP(Open Supervised Device Protocol)をサポート
 - BioStar 2と完全互換
- 詳細情報・<https://www.tenpo.co.jp/product/detail/768/>

【屋外用コンパクトRFID読取機

Xpass D2(XPD2-GDB、XPD2-GKDB)】



■特長

- OSDPIによる業界標準の通信
- マルチタイプのハードウェア構造
- セキュア・エレメントによるセキュリティ強化
- IP67適合の防水および防塵
- IK08適合のバンダール・ブルーフ

- マルチ・クラスRFIDカードの読み取り
 - BioStar 2を使用しスマートカードを発行可能
- 詳細情報・<https://www.tenpo.co.jp/product/detail/772/>

【屋外用IP指紋ターミナル BioLite N2(BLN2-OAB)】

■特長

- クラス最高のパフォーマンス
 - ・最新のSuprema指紋アルゴリズム
 - ・1.2 GHz CPU
 - マルチRFIDカードの読み取り
 - ・LF(125kHz)とHF(13.56MHz)とのデュアルバンド
 - ・NFCおよびBLEを含む全てのカードタイプの読み取り可能
 - OP6光学センサによる高精度とセキュリティ
 - IP67等級保護で屋外設置に最適な堅牢な構造
- 詳細情報・<https://www.tenpo.co.jp/product/detail/771/>



【コンパクト指紋デバイス BioEntry P2 (BEP2-OD)】

■特長

- クラス最高のパフォーマンス
 - ・最新のSupremaアルゴリズム
 - ・高速マッチング:最大10000マッチ/秒
 - ・1.0GHz CPU
 - ・高精度OP5光学センサ
 - 拡張容量
最大10,000ユーザと1,000,000イベント・ログ
 - マルチRFIDカードの読み取り
LF(125kHz)とHF(13.56Mhz)とのデュアル・バンド
HID multiCLASSがサポートする全カードタイプを読み取り
(EM/HID Prox/MIFARE/iCLASS/DESFire/FeliCa/NFC)
 - 汎用インタフェース
 - ・コミュニケーション:TCP/IP、RS-485、Wiegand
 - ・入出力:TTL I/O、リレー
- 詳細情報・



製品ページ:<https://www.tenpo.co.jp/product/detail/769/>



AI容認派？ それともAI拒絶派？

：

：

結論・・・AIを無視する ことはできない。

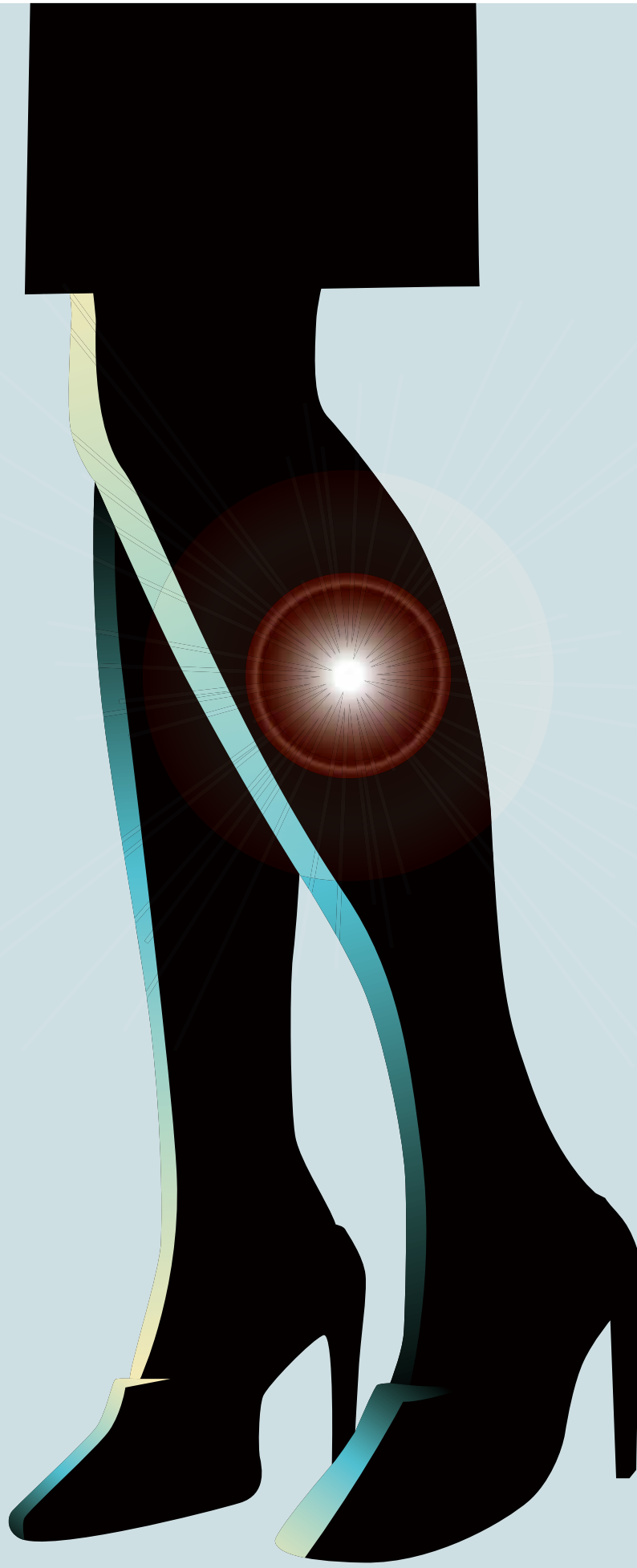
先進の解析技術が セキュリティ産業に影響を及ぼす 時期はもう間近に来ている！

ゲーム・チェンジャーそれとも喧騒者？

過去12ヵ月間のセキュリティの主要な傾向の1つを特定すると、人工知能またはAIと呼ばれる高度な解析エンジンとなる。本章では、これらの解析がセキュリティを強化する方法、および一部の企業がAIという言葉で問題提起する理由について解説する。

●ウィリアム・パオ(a&s International誌記者)著





本稿では、2018年のSECURITY50順位表と関連記事を掲載している。2018年の編集記事では、2017年の物理的セキュリティ製品の売上高について解説している。

予想通り、Hikvision社とDahua社は今年の1位と2位を獲得した。言い換えれば、世界のセキュリティ分野での圧倒的な中国支配を象徴するものだ。一方、セキュリティ産業界では引き続き成長が見られ、2017年のSecurity 50での全体売上高が増加した。しかし、最も重要なことは、過去12ヶ月間に業界で見られた最大の傾向は、高度な解析やその他の情報化ソリューションを使用したことで、ユーザがこれまで以上に多くの状況認識と効率を達成したことだ。かなりの数の企業が、人工知能とかAIという用語でソリューションを販売しているが、他の一部の企業はこの用語を使用することに躊躇している。

AIの有無に関わらず、これらの先進的な解析機能はここにあり、今後のセキュリティに影響を与えることが予測されている。

Security 50では、AIおよび2018/2019年の結果と予測に関する記事、過去1年間で最も成長を示した個別市場に関するシステム構築に関する洞察、メモリー社報告書による2018年市場と技術の概要など、物理セキュリティ業界の包括的な情報を掲載している。

世界セキュリティ企業 上位10社

| 順位 | 会社名 |
|----|----------------------|
| ★1 | Hikvisionデジタル・テクノロジー |
| ★2 | Dahuaテクノロジー |
| ★3 | アッサ・アブロイ社 |
| 4 | ボッシュ・セキュリティ・システムズ |
| 5 | アクシス・コミュニケーションズ |
| 6 | フリーアー・システムズ |
| 7 | アレジオン |
| 8 | Hanwha Techwin |
| 9 | Tiandyテクノロジー |
| 10 | Avigilon |

AI支持者は、AIという言葉から様々な利益を得ている

初期のセキュリティの過大評価された解析と比較すると、現在の解析エンジンはかなりの成熟度に達しており、オブジェクト認識、スマート検索などのアプリケーションでその効果が実証されている。これは、高いコンピュータ能力、高度なアルゴリズム、システム訓練が可能なデータの広範な可用性、個別市場での需要に対するより大きな理解など、いくつかの要因によって可能となった。



ビジネス展望

ビジネスの観点から見ると、AIは、関連する研究開発に焦点を当てた幾つかの新興企業を生み出すことが期待することができる。これにより、合併買収(M&A)が増加し、ある企業がAI関連の資産や人材および資源を別の企業から取得する場合がある。「企業が研究開発プログラムにAIを含めるための戦略を策定することで、既に先見性のある技術競争が激しくなっている。小規模企業は、独立主題専門家との連携を通じた可能性が高いAI主導の研究開発への支出を急増させなければならないか、あるいは急速に後退してしまう。中堅企業はM&Aやパートナーシップ・プロセスを通じてそのような専門知識を獲得する可能性が高い」とMagalセキュリティ・システムズ社ドロール・シャランCEOは語る。

最近の業界内の統合事例を見ると、技術的なものよりも財務的な理由で企業同士が協業していることがよくある。AIは、セキュリティ業界で何ができるのかは、全体的な導入率の点で未熟な状態だ。これらの理由から、AIは近い将来合併の主要な推進役であるとは考えていないが、有望なAIのスタートアップが数多くあるため、将来的には買収を促進するかもしれない」とフリー・システムズ社セキュリティ部門副社長兼部長ジョン・ディステルツヴァイグ氏は言う。

最終的な結果は、ユーザがこれまで以上の効率と状況認識を達成するのに役に立つソリューションだ。「映像解析技術とソフトウェアと共に人工知能(AI)を採用することは、市場の成長を著しく促進し、市場成長の見通しを明るく保つために大きく貢献している」とグランド・ビュー・リサーチ社研究アナリストのサウラ・プラディーブ・ソルティ氏は述べ、次のように話す。「この技術の使用は、画像と映像へのより効果的で便利なアクセスを容易にし、意思決定と脅威の検出において全体的な効率を高めている。AIをセキュリティ・システムに統合することは、侵入者を検出し、事件場面の状況を解析してシステムに供給し、そこから発せられる指示に基づいて行動を起こす完全な自動化を備えたスマート周辺セキュリティ・ソリューションを提供する上で役に立つ」。

マイルストーン・システムズ社CMOケネス・フン・ピーターセン氏は「センサやカメラが増え、人間が追跡することが不可能になったため、AIは確かに一般的な導入がますます広がり、セキュリティ市場全体に強力なツールとして存在感を増している。したがって、あなたのセキュリティへの導入から最大限の成果を出すためには、セキュリティ導入により得られたデータを適切な方法で取得または解釈するためにAIを使用する必要がある」と指摘している。

Avigilon社マーケティング&コミュニケーション担当副社長ウィリアム・リャン氏は「現時点では、これまで以上に多くのカメラ映像を記録しているため、セキュリティ操作者は処理速度を維持するという課題に直面している。それに加えて、人々の注意力は短時間しか維持することができない。しかし、AIはこのような状況を克服するのに役立つ技術で、継続して人類よりも多くの映像データを解析することができる」と話す。

同氏は、「セキュリティにおけるAIの役割は変容的だ。AIを搭載した映像管理ソフトウェアは、セキュリティ操作者をより効率的かつ効果的な職場で活動するために役立っている。継続して映像画面を見て監視の「検知」機能を自動化する必要性を排除することで、AI技術が操作者を最も重要なことに集中させることができる。これは法医学調査を迅速化するだけでなく、リアルタイムのイベント対応も可能にする。AIが非常に有用な場合の1つの例はスマート検索で、録画した映像素材を数時間で見るのではなく、ユーザは検索クエリを入力して関連する映像を迅速に取得することができる」と語る。

Dahua社海外市場開発部長ギャオ・ジアクィ氏は「当社は、AI技術特に認知解析を使用して業界で業界を牽引し、実際のセキュリティ・ソリュー

ションの課題を解決している。数千の映像チャンネルでは、映像データを検索してストリーミングすることは困難だ。当社は、検索機能と第二段階の解析を可能にするために、人間または車両の特性に基づいて映像データを構成する」と話している。

これらの解析はスマートな検索に留まらない。例えば、人がマスクを着用したり偽装したりして、当人とデータベースを照合する場合、AI対応の顔認識は非常に効果的で正確だ。

Magalセキュリティ・システムズ社CEOドロール・シャラン氏は「AI/深層学習(ディープ・ラーニング)の決まり事は、既存のアプリケーションの性能を大幅に向上させ、以前には実現不可能だった高度な新機能を導入することだ」と話す

「AI」という言葉の問題を取り上げる

一部のベンダーやコンサルタントは、「AI」という言葉を使って問題を解決した。しかし、現在使用されている技術は、遙か彼方にある工知能ではなく、高度な解析機能を備えている。

ジェネテック社CEO兼社長ピエール・ラズ氏は「我々はAIという言葉に慎重でなければならない。AIが大きな進歩をもたらすと主張する誇大宣伝が多いからだ。真のAIは遙彼方にあり、私たちに空を飛ぶクルマや自動運転車を与えてくれることはない」と述べている。

IHSマーケティング社調査アナリストのアンナ・スリウォン氏は「人工知能はセキュリティ業界に進出したが、使用されるアプリケーションはまだ限定されている。われわれは、ビル内または施設周辺の使用状況を長期間監視するパターンに基づいて、ビル内の様々な行動を個別に判断することができる情報化されたセキュリティ・システムまでには、まだ長い時間をかけている」と話す。

ビットリファイン・グループ社事業主任アレックス・ガニン氏は、「AIは、文字通りコンピュータが『考える』ことだ。『考える』ことをさせるためには、機械学習、深層学習、生成的な敵対的ネットワーク、拡張されたデータ学習など、多くの複雑な技術を組み合わせる必要がある」と語る。

彼らによると、今日の技術には予測要素が欠けているという。例えば、ある人間が自身のプロフィールの特徴ではない行動を示していると、誰かが悪いことをやろうとしていると判断することなどだ。

「そこには多くの『自己学習』アルゴリズムがある。そして、ニューラル・ネットワークに基づく現在の有望なアルゴリズムで、彼らは長い間生きてきた。対象物を捉えてその速度をこの場面の対象物の平均速度と比較することができる当初の自己学習は、実際には基本的なものだ。これではAIが疑わしい人の行動を自



マイルストーン・システムズ社CMO
ケネス・フン・ピーターセン氏



Avigilon社
マーケティング&
コミュニケーション
担当副社長
ウィリアム・リャン氏



Magalセキュリティ・システムズ社CEO
ドロール・シャラン氏



ジェネテック社
CEO兼社長
ピエール・ラズ氏



IHSマーケティング社
調査アナリスト
アンナ・スリウォン氏



フリーア・システムズ社
セキュリティ部門
副社長兼部長
ジョン・ディステルツ
ヴァイグ氏

動的に認識することをほとんど期待できない」とガニン氏は指摘する。

「犯罪防止には、銀行強盗のような事件が起きようとしているかどうかをシステムが判断するために、チェックしなければならない非常に多くの変数に関係する。しかし、最新のAIシステムは100%有効ではなく、実際には無実であるにもかかわらず、疑わしいと思われる行動を誤って分類する可能性がある。これが多くの倫理的問題を引き起こす。潜在的に否定的に意図されているような特定の種類の行動を描写することは、多くの倫理的問題を提起し、公衆の反発に直面する可能性がある」とスリウォン氏は語る。

フリーア・システムズ社セキュリティ部門副社長兼部長ジョン・ディステルツヴァイグ氏は、「AIベースの製品は、『この人物が疑わしい方法で行動しているか』、『この人物とこの場面そしてこの環境では正常な活動か?』など、より複雑な決定を下すことができるということを示していない」と話す。

しかし、ガニン氏は「これは、どのように呼ばれているかに関わらず、高度な解析に本質的に価値がないわけではない。高度な解析だけでも、実際には複雑で強力な技術であることに気づくだろう。それは人生のあらゆる側面について驚くべき視点を開く。映像監視はそれのほんの一部だ」と述べている。

ラズ氏は、「情報化の幻想を与えるプログラムでの機械学習と統計的推論は、エンドユーザーに有用性と機能性の向上をもたらしている。最近の情報化の機械学習技術の進歩、特に深いニューラル・ネットワークの進歩は、誰もが利用できるようになった」と話し、「我々は、当社の主要技術の一部の性能を向上させるためにこれらの技術を適用することができた。その一つが当社のAutoVuの自動ナンバープレート読み取り(ALPR)技術だ」と説明している。

2018/ 2019年の 結果と予測





コマックス社社長
パウル・ビュン氏



Dahua社CEO
フ・リクアン氏



MOBOTIX社CEO
トーマス・ローステン氏



アクシス・コミュニケーションズ社
CEO兼社長
レイ・モーリソン氏



Nortekセキュリティ&コントロール社
国際営業兼CI&セキュリティ担当部長
ホラシオ・モラレス氏

SECURITY 50にランクインした企業は、縦断的なセキュリティに対する需要の高まりのおかげで、2017年に成長を遂げた。そして、2018年第1四半期から第3四半期の業績も順調で、この状況がさらに1年間継続して成長するとの肯定的な感想を表明した人も多い。

●ウィリアム・バオ 著

今年のSecurity 50ランキングを見ると、上位2つのスポットが Hikvision社とDahua社に集中してスポットライトが当たる。Dahua社は前回の3位から今回2位に躍り出た。これは、世界最大のセキュリティ企業として、中国の2つの企業(セキュリティ業界では総称してHIKUA:ヒクワと呼ばれている)の地位を固めたに過ぎない。Hikvision社は2017年売上高で54億米ドルを記録し、2016年から26.4%の伸びを記録した。一方、Dahua社は2017年売上高で27億ドルを記録し、前年比41.4%の増加となった。

他の上位10社については、アッサ・アブロイ社、ボッシュ・セキュリティ・システムズ社、アクシス・コミュニケーションズ社、フリーア・システムズ社、Allegion社、Hanwhaテックウィン社がそれぞれ

2018年SECURITY 50

最も高い 売上 総利益率

1. VIVOTEK社 69.5%
2. Fermax 56.9%
3. IndigoVision 53.8%
4. Axis Communications 51.8%
5. Avigilon 51.6%
6. AVTECH社 50.8%
7. ACT社 47.1%
8. SUPREMA社 46.3%
9. HANHWAテックウィン社 43.6%
10. DSSL社 40.7%

2018年SECURITY 50

最も高い 売上伸び率

1. RAYSHARP社 71.3%
2. DSSL 48.2%
3. Dahua Technology 41.4%
4. Tiandy 30.2%
5. CP Plus 27.7%
6. KEDACON社 26.9%
7. ITXセキュリティ社 26.8%
8. HIKVISION社 26.4%
9. KOCOM社 25.6%
10. マイルストーン・システムズ社 24.3%

2018年SECURITY 50

最も高い 利益金額 (百万米ドル)

1. HIKVISION社 1235.14
2. DAHUA社 338.09
3. アクシスコミュニケーションズ社 82.73
4. FERMAX社 34.67
5. Nedap社 30.37
6. オプテックス 29.02
7. AVIGILON社 28.26
8. Infonova社 18.07
9. マイルストーン・システムズ社 17.05
10. アイホーン 13.14

れ3位から8位にランクされ、2017年とほとんど変わらなかった。Avigilon社が前回12位から今回10位に上昇した。

Tiandyテクノロジズ社は9位にランクインした。売上高ランキングでは、今年はHikvision社、Dahua、Tiandy社、Raysharp社、Kedacom社がそれぞれ1位、2位、9位、18位、22位に入った。今年のSecurity 50でデビューし、18位にランクされたRaysharp社は、収益成長の点で第1位を獲得し、収益を71.3%伸ばした。昨年の人気者であるWanajaanインタコネクテッド・テクノロジー社は、今年上位15位から落ちた。

一方、中国以外のアジア企業は依然としてトップ15の収益獲得者を独占した。前述の5つの中国企業に加えて、他のアジア進出企業には、CPプラス社、ITXセキュリティ社、KOCOM社、INCOM社、VIVOTEK社がある。

欧米企業のうち、Security 50の新規参入者であるロシアのDSSL社は、売上高が48.2%増加し、売上増加率で第2位まで成長した。また、マイルストーン・システムズ社とアクシス・コミュニケーションズ社は、売上高の増加でそれぞれ10位と12位につけた。

粗利金額では、Hikvision社が14億ドル、アクシス社が5億1百万ドルを上げた。利益率が高い企業では、VIVOTEK社、Fermac社、インディゴヴィジョン社、アクシス社そしてAvigilon社が上位5社を占めた。

純利益率が高い上位5社は、Hikvision社、Dahua社、アクシス社、Fermac社そしてNedap社だった。

「当社の製品が市場を牽引する位置を維持し、正しい方向に進むことを確実にするためには、上流の製造業者と協力している。例えば、レンズでは当社の製品に合った最も適切なメーカーと協力している。サプライ・チェーンの視点からは、様々な供給企業から選択することができる。これにより、適切なコストでより良い性能を有する最終製品が得られる。これは、コストを管理し、収益性を改善する方法の1つだ」とHikvision 社国際事業室担当副社長キーン・ヤオ氏は話している。

2018年の継続的な成長

全体として、2017年は成長をもたらし、ほとんどの企業は2018年にも成長を見込んでいる。「2018年の全体的なセキュリ

2019年の 技術潮流

多くの企業は2019年に
セキュリティ技術がどのように動くかを見
ている。
セキュリティ 50に掲載されている企業は、
次に掲げた技術に注目している。





グランド・ビュー・リサーチ社
研究アナリスト サウラー・
プラディーブ・ソルティ氏



アッサ・アブロイ社
EMEAデジタル・アクセス・
ソリューション部担当部長
トーマス・シュルツ氏



Hikvision社
国際事業室副社長
ケーン・ヤオ氏

ティ市場は期待感があり、前年度の世界的な成長率が8%を超え、大幅な利益を上げることが見込まれている。グランド・ビュー・リサーチ社の研究アナリストのサウラー・プラディーブ・ソルティ氏は、国境を越えた緊張の高まり、テロの拡大、人口の増加、所得の増加などの要因が、市場の成長を加速させると予想している。

「顕著なセキュリティ違反、テロ行為、新しい規制要件の事件が、引き続き高度なセキュリティ・ソリューションに対する全般的な需要を押し上げている。これらは、セキュリティ業界の成長に寄与する要因の一部に過ぎない」とフリーア・システムズ社セキュリティ担当副社長ジョン・ディステルツヴァイグ氏は述べ、「当社では、ソリューションの需要が増えており、売上高は前年を上回っている」と話している。

「2018年には、先進的な設備と中小規模の設備の両方で強力

な市場が見られるため、良好な成長と市場全体にわたり好調な予測がある。今年も来年も2桁台の成長が見込まれている。我々は市場について非常に肯定的だ」とマイルストーン・システムズ社CMOケネス・フン・ピーターセン氏は述べている。

Nortekセキュリティ&コントロール社国際営業部長ホラシオ・モラレス氏は次のように述べている。「当社のセキュリティ製品販売は2017年に拡大し、2018年も成長を続けている。これは新製品の発売と製品の相互運用性に焦点を当てたからだ」。

「世界的に、公共および民間セクターのためのより多くのセキュリティ・システムの需要に基づいて、2018年にはセキュリティ市場が拡大し続けた。当社が提供しているような柔軟性と適応性そして連合性を備えたシステムの需要は、引き続き新しいビジネスをもたらす」とジェネテック社CEO兼社長ピエール・ラズ氏は述べている。そして、「北米は2018年の計画以上の成長を遂げており、統一されたソリューションの市場導入は依然として強く、サイバー・セキュリティに関する認識が北米市場成長の原動力となっている。インドなどの新興市場は成長の観点から爆発的に成長し、APACは目覚ましい成長を遂げたが、成長は主に成果を上げた安全な都市構想によってもたらされた」と指摘している。

「2018年は当社にとって好調な1年で、EMEAと米国が最強の市場だ。2018年上半期のEMEAの売上高は12%増だった。成

サイバー・セキュリティ

技術的にもサイバー・セキュリティは2019年も引き続き話題沸騰になるだろう。MOBOTIX社CEOトーマス・ラステン氏は「当社ではサイバー・セキュリティを開発と企業戦略に既に2018年から組み込んでいる。特に技術面ではエッジ開発に焦点を当てている。つまり、可能な限り多くの情報とストレージを集中させることに焦点を当てている。同時に、当社はこの分散された概念に取り組んでいるパートナーと協力している。私たちはあらゆる企業と一緒に活動することはなく、サイバー・セキュリティについて同じ焦点を有する一部のパートナー企業とだけ協業している」と述べている。

ユーザとデータの秘匿

AI(人工知能)が勢いを増すにつれ、データの使用方法と保護方法が大きな問題になる。アクシス・コミュニケーションズ社CEOレイ・モーリソン氏は「もちろん、AI/深層学習(ディープ・ラーニング)については、業界内で多くの議論が行われている。当社はまた、プライバシーと個別化に重点が置くべきだと考え

ている。企業のプライバシーの取り扱いと個人データの使用に関する懸念は、今後の業績が最も影響を与える側面の1つになる」とアクシス・コミュニケーションズ社の社長兼CEOレイ・モーリソン氏は語っている。

AIと解析

言うまでもなく、AIや高度な解析機能もセキュリティ分野で支配的だ。「AIは中小企業にとってプラスだと思うので、より多くの機会を得ることができる。AIの最大の特徴は、独特の要求を作り出し、誰もそれをカバーすることができないということだ。将来的には、これらの要求に適した特別なアプリケーションを作成するための新興企業が生まれてくるだろう。IoTが中小企業にチャンスをもたらしたように、AIも同様だ」とHikvision社国際事業室担当副社長ケーン・ヤオ氏は述べている。

エッジ・コンピューティング

AI/深層学習に密接に関連しているのは、エッジ・コンピューティングであり、複雑なアルゴリズムを実行する上でかなり強

長の背景にある主な要因は成長市場の存在であり、当社製品やソリューションによる高度な技術革新と開発の恩恵を受けることができることだ」とアクシス・コミュニケーションズ社CEO兼社長レイ・モーリソン氏は強調する。

EMEAは様々な成長要因から特に好調な業績が期待できる。「確信のある成長率には、犯罪発生率の上昇によるセキュリティ・システムへの人気の高まりに起因する可能性がある。またEMEA地域の空港や公共の場所では、映像監視カメラの設置が増加している」とソリティ氏は語っている。

「欧州では、セキュリティに対する需要が高まっているが、先進国市場と成長市場の間には違いがある。中東およびアフリカでは、スマートシティ、住宅建設、空港などの社会基盤建設が続いている」とCOMMAX社長パウロ・ビョン氏は述べている。

Magalセキュリティ・システムズ社CEOドゥロル・シャラン氏は「EMEAでは2018年が良い年になりそうだ。政治的な不確実性とGDPRの適用により事業開始が遅れたにもかかわらず、第2四半期から公共部門と民間部門の両方で強い需要があった。アフリカおよび中東市場は原油価格の影響を強く受けており、石油およびガス産業での強い投資に繋がっている」と語っている。

小売業市場は2018年も継続して成長

個別市場に関しては、2018年にエンドユーザがセキュリティ

および非セキュリティ・アプリケーションのためにセキュリティに投資したため、ほとんどの個別市場でセキュリティ投資が見られた。「2018年にセキュリティに投資した主要な垂直市場は、主に経済的改善、脅威の増大、最新で強化されたセキュリティ水準の導入によるものだ」とシャラン氏は述べている。

産業業界はセキュリティの最大のユーザだ。MOBOTIX社CEOトーマス・ローステン氏は「産業用の象徴的な例はサーマルカメラの技術だ。大量のガスを輸送している大きなガスパイプがある工場場合、その安全確保には多額の費用がかかるだけでなく、付近の住民の環境にも影響を与える漏れがあるかもしれない。ガス漏れはサーマルカメラによって検出することができる。このカメラは人間の目が見ることができないものを検出することができるからだ」と述べている。

特に小売業はベンダーの収益に大きく貢献した。多くの小売業者がビジネス情報の取得と効率化のためにセキュリティを利用するようになってきたからだ。

「当社は小売業での好調な状況を把握している。それはユーザが安全を超えた可能性を見ているからだ。通常のセキュリティ機器の導入には結構な費用がかかるが、セキュリティを超えた機能を追加すれば、実際に投資収益率を計算することができる。例えばヒートマッピング機能で、ユーザは実際に商品を店舗にもっと効果的に陳列することで売上を向上させると子ができる」

力になる。収集された全てのデータを理解するためのクラウド・コンピューティングを提供する。

フリーア・システムズ社セキュリティ担当副社長ジョン・ディステルブルウェー氏は「よりスマートなエッジ・デバイスを実現するためのエッジ・コンピューティング資源が強化される。業界全体でクラウドベースのソリューションをより広く受け入れること、情報のより深い解析のためにクラウドを情報として使用することだ」と語っている。

モバイル資格情報

アクセス・コントロール面では、無線アクセスコントロールとモバイル資格情報がさらに市場で求められる。

アッサ・アブロイ社EMEAのデジタル・アクセス・ソリューション・マーケティング・コミュニケーション部長トーマス・シュルツ氏は「プラスチック・カードではなく、スマートフォン資格情報に牽引力が必要となる。例えば、SMARTair Openowソリューションは、米国の主要な大学キャンパスとスペインの共同作業スペースに導入されている。フィンランドのアッサ・アブロイ社は、

キーの回転から運動エネルギーを収穫することにより、自己給電のパルス無線施錠を開始した。これらの両方がゲーム・チェンジャーになるだろう。2019年以降のことについてもっと深く知りたいと思っています」と語っている。

趨勢はまだそこにある

全体として、グローバルなセキュリティ市場で見られる現在の勢いは、短期的には止まる見込みはないことは明らかだ。ますます多くのユーザが、セキュリティ操作と非セキュリティ操作の両方にセキュリティを適用している。ユーザがより積極的かつ効率的になるように高度な解析とAIを使用することは根本的なものであり、今後数年間に咲くことが期待されている。これら全てが、異なる地域での強い経済効果と相俟って、今後数年間で積極的に安全保障に影響を与えることが予想される。

とピーターセン氏は指摘している。また、ローステン氏は「小売業では、解析技術を使用して顧客の行動を検出し、従業員が小売店の正しい場所にいることを確認することができる。レジではなく、顧客の滞在している場所へ移動することだ」と話している。

2019年への意欲的な感情

多くの関係者は、2019年が現在の成長傾向を世界中で継続する可能性が高いとの見通しを示している。個別市場では、2019年に都市監視/スマート都市がより大きな可能性を持つ分野として挙げている。

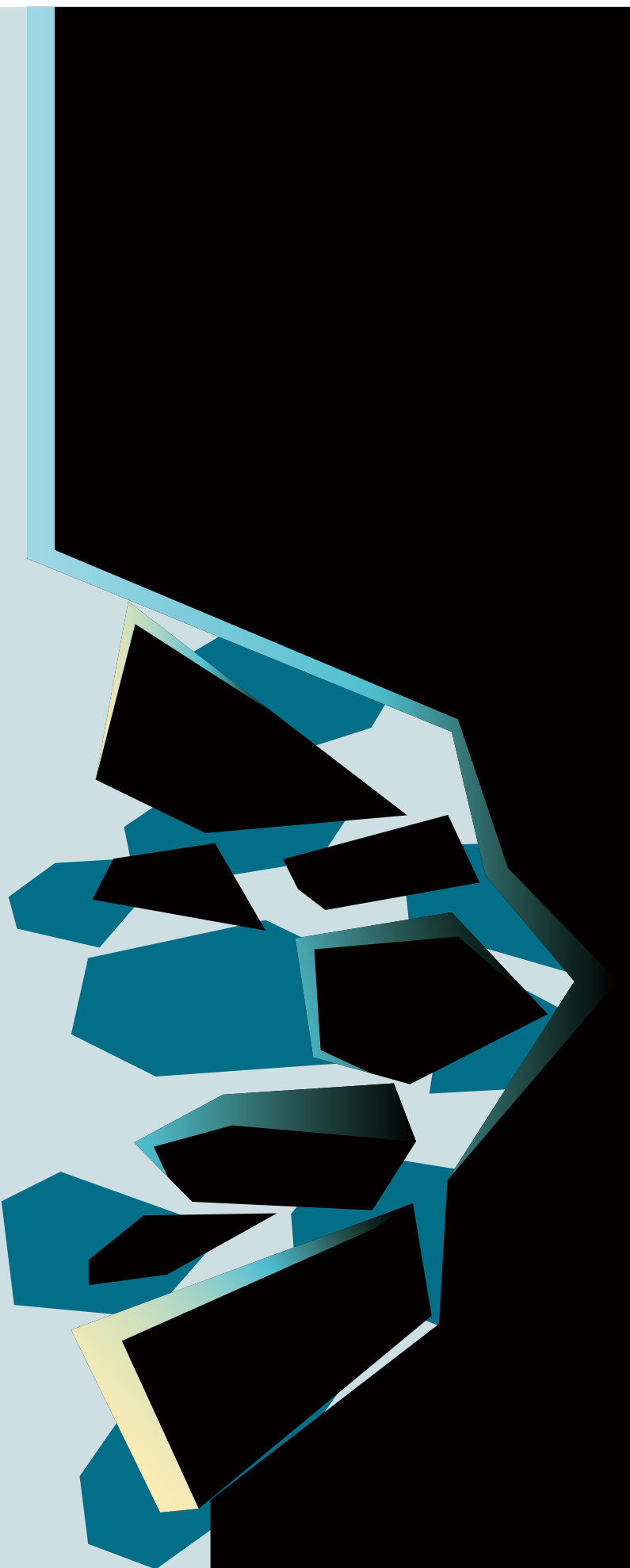
地方自治体の業務を改善し都市をより知的にするために、Dahua社は、ハート・オブ・シティ(HOC)イニシアチブを開始した。Dahua社・リクア会長は、「HOCは、フル・センシング、完全情報化、フル・コンピューティング、そして完全なエコ・システム能力により支えられたスマートな都市開発エンジンだ。「1プラットフォーム、2つのセンター、Nアプリケーションの都市、産業および商業レベルでのアプリケーション用スマートシティフレームワークの構築を実現する」と宣言している。

一方、HIKVISION社ヤオ氏は「当社は現在、スマートシティ向けのトップレベルの計画と詳細設計の機能を完備している。安全都市事業で行われる映像監視の役割も微妙に変わってきた。スマートシティの多くの事業では、公共の安全だけでなく、交通管理もそうだ。例えば、中国では交通違反が大幅に減少している。当社は、映像情報を活用して信号制御を管理し、最終的に交通渋滞を緩和し、運転行動を規制するのに役立つITSソリューションを開発するために、映像監視の専門知識を構築している」と説明している。

他社でも2019年の市場を予測している。モラレス氏は「当社は世界のセキュリティ市場が成長を続けると予想しており、消費者の生活スタイルにセキュリティをよりシームレスに統合するソリューションの開発に力を注いでいる。2019年の見通しは、2018年に経験した好調な潮流が新年でも継続することに楽観的だ。2019年には、世界中でセキュリティの成長が期待されるが、APACと北米では多分かなり強気なものとなる。まだ話すのは少し早いですが、2018年には2019年に収益の向上が見込めるだろう」と強気の弁を語っている。

そして、バイロン氏は「世界のセキュリティ市場は成長を続けると予想され、個々の機器ではなくIoTにリンクする規格の収束した製品の需要が増加するだろう。新興国は、市場が成長するにつれて競争を克服することが期待される。もちろん北米市場は重要だ」と述べている。

AKS



システム構築者が最も成長する業種を指摘

2018年は終わったが、悲しいことに、2月のフロリダ州のパークランドでの学校銃撃、5月のパリでのナイフ攻撃など、幾つかの事件が発生した。これらの悲劇は、エンドユーザがセキュリティを必要としていることを強く希望する結果をもたらし、それゆえ今後数年で成長が見込まれることになる。これは、北米、EMEA、APACといった世界中の主要市場に当てはまる。

●ウィリアム・バオ a&s International誌記者



北米市場にとって 不可欠な要素は、 セキュリティ向け 最も重要な支出項目

北米では、セキュリティ上の懸念や人命や財産の保護の必要性の中で、昨年のセキュリティに重点を置いた分野として政府機関と軍関係機関を挙げている。

アフィリアイテド・エンジニアズ社ショーン・アーレンス氏は「これらの政府の施設や機関は、管理部門向けに予算を得ており、その資金を使ってセキュリティを改善している。無人機などの脅威の可能性を最小限に抑えることができる」と話している。

キントロニクス社副社長デニス・ガレン氏は「境界保護の必要さから、この分野のユーザは高度なセキュリティ・ソリューションを要求している。軍事部門は、レーザー照明装置を備えた長距離サーマルカメラや可視カメラに非常に関心がある」と指摘している。

アーレンス氏は「データセンターや社会基盤を含むセキュリティが重要な個別市場部分に費やした別の垂直市場。「社会基盤の場合、違反は広範な地域にも影響が及ぶ。水、ガス、電気の供給に混乱のもとらす可能性がある。これらの影響は多くの人々に影響を及ぼすため、重要な意味を持つ」と述べている。



「政府機関は管理下で資金を得ており、その資金を使ってセキュリティを改善している」

アフィリアイテド・エンジニアズ社
セキュリティ市場グループ責任者
ショーン・アーレンス氏、



「政府と医療機関は、機能強化されたシステムの統合に関心がある」。

キントロニクス社
副社長デニス・ガレン氏

政府機関

地域におけるテロなどの脅威への支出が増加。

ミッション・クリティカル

公益事業や発電所は、侵入者を遠ざけるためにセキュリティが必要だ。

生体技術

IP盗難の増加により、ユーザは訪問者管理やその他のソリューションに投資するようになった。

その一方で、ますます多くのエンドユーザ組織は、知的財産(IP)の盗難(企業秘密やR&D情報を盗み、競合他社に優位性を与えること)により被害を受けている。IP盗難によって最も傷ついている企業の中には、最先端の医薬品を開発するバイオテクノロジー企業がある。

「最近IP盗難がかなり発生していることが判明して、企業秘密情報や独自の機密情報を失ったことで、組織に大きな影響を与えた事例が幾つ也存在する。そのため、組織はこれを表面化していない危険と認識し始めており、この情報へのアクセスを最小限に抑えるために資金を投入し始めている」とアーレンス氏は述べている。

さらに「これらの課題の中で、エンドユーザはセキュリティ技術に目を向け、問題やニーズに対応している。政府や医療機関は、拡張機能を提供するシステムによる統合に関心がある。これら

の大規模機関では、情報を統合化したシステムの必要性が高まっている。彼らは、「たら、れば」論理、攻撃的銃撃状態の検出、生体アクセス・コントロール、顔認識、ナンバープレート認証(LPR)などの高度な分析ソリューションに高い興味を持っている。これらの分野では要望が高まっている。生体認証やBluetoothアクセスコントロールは、特定のイベントに基づいて独自の結果を作成するために、LPR、顔認識、銃撃検出と組み合わせて使用している。例えば、銃声が検出された場合、事前登録した自動ロックダウン命令を作動する指示が発動する」と述べている。

訪問者の管理は、侵入や不正侵入を防ぐために広く採用されている。「私が見た来訪者管理システムは、フィードバックによるインタフェイスをサポートしている。例えば、登録されていない訪問者が保護区域を通して侵入しようとする、検出システムはその侵入を知らせ、同区域にいる他の来訪者と職員に直接電話を介して警告する。私たちは実際に電話で誰かの共連れを伝える情報を送ることができる」とアーレンス氏は述べ、「モバイル資格情報を発行したり、来訪者を追跡したり、来場者を追跡したりすることができる。Bluetoothビーコンなどを活用して、個人がどこに行くのかを認識し、制限された区域に行けないようにする。ユーザも将来的に訪問者の管理を今以上に重視するようになる」と続ける。

成長の見通し

世界銀行の予測によると、北米特に米国の好調な経済実績の中で、今年と来年にそれぞれ2.3%と2.7%の成長を記録すると見込まれる成長市場だ。これは、セキュリティにプラスの効果をもたらす。

現在の政権下では、GDPが拡大しており、それはあらゆる種類のもを生み出している。また失業率の低下がある。これは経済成長を肯定する証左でもある。これにより、企業はより多くの収益を得ることができ、収益の増加は、セキュリティを含め、組織全体に多くの予算を生み出す」とアーレンス氏は述べている。

「キントリニクス社は2017年から2018年にかけて20~25%の売上増を実現している」とギャレン氏は紹介し、これに主に先進技術に重点を置いていることを付け加えた。「当社は製品を販売するのではなく、複雑なソリューションを販売している。高度な機能を備え、より複雑なアプリケーションに移行することにより、事業案件はより多くの企業向けになり、全体的に大規模化する傾向がある。

来年は、米国市場で見られる現在の経済情勢が鈍化することはないと考えられていて、成長も期待される。アーレンス氏は「経済成長に関して同様の管理をしている限り、成長が見られる」と

見ている。そして、今後数年間北米市場で見られる技術動向については、より情報化されて人的巡回の代替品として実用化されるロボット技術を挙げている。

「巨額のROIがあり、サイトのセキュリティ・スタッフのコストは非常に高価だ。施設を巡回しているスタッフに1時間に12ドルから16ドルを支払っている。彼らは通常請負業者で忠誠心が無い。しかし、ロボットの導入で、重要な建物内を巡回するスタッフの必要性を排除することができる。「これらのロボットは、直接的に対応するため現場にスタッフを配置するシステムと直結している。そして最初の観測報告はロボットによるものだ」と同氏は語っている。



EMEA市場



勢いのあるセキュリティ・アプリケーションを超える

エンドユーザが地域の様々なセキュリティ問題に対処するにつれて、セキュリティは欧州と中東で成長している。引用された上位の業界の一部には、政府、小売、銀行が含まれている。さらにエンドユーザは、セキュリティ以外のアプリケーションにもセキュリティを使用している。

一方、GDPR(一般データ保護規制)が発効することから、欧州のエンドユーザはデータの機密さにも重点を置いている。

中東

中東では、政府機関がオフィスや政府機関をセキュリティ危機に対して安全なものにする必要があるため、主要な収入源になる。クウェートに本拠を置くアイデアル・インフォメーション社運営&保守点検主席アーメド・マタリ氏は、「この分野のユーザは、施設へのアクセスを保護し、ユーザと時間ごとにアクセス・コントロールを管理し、アクセス・イベントを監視するセキュリティを購入している」と話している。

続けて「当社は、本社のあるレバノン、イラク、ナイジェリアで活動している。テロリストの脅威は、これらの国家政府のセキュリティへの要望を支援している。これにより、脅威を軽減するために必要な高信頼性で最高水準のソリューションを提供することができる」と、バイルートでの都市監視事業案兼を担当したガーディア・システムズ社CEOジアド・モンラ氏は述べて、「当社は、350ヶ所を網羅する2,000台のカメラ、200台のLPRカメラ、光ファイバー基盤、モジュラ用とモバイル用の2ヶ所のデータセンター、50人を抱える運営制御室2ヶ所で最新技術を満載したターキー都市監視事業を1年間担当した」と力説している。

一方、小売業では、ロス防止が強調されている別の重要な個別市場として紹介している。「小売業者は、アラーム告知を有効にすることで、紛失や犯罪を防ぐためのセキュリティが必要だ。IP監視、アクセス・コントロール・システム、不正侵入検知システムを提供し、問題や損失を避けることができる。

金融業もまた、ユーザが一段と統合された指令本部向けソリューションを探し求めている重要かつ有望な業種だ。「銀行は本部1拠点から全ての支店でのカメラ映像を見たり再生したり、物理的なアクセスを制御したり、侵入や火災警報システムを監視したりする必要がある。現在、当社はデジタル・バンキングの新しい時代に移行するためのオラクル・コア・バンキング・ソリューションを導入している」と、既にイラクのAI ラフィダイン銀行で案件実績を有するモンラ氏は紹介している。

システム構築者によると、進行中のセキュリティ要望がある中東では引き続き成長が見込まれている。モンラ氏は「我々は2017年と比較して2018年に同じ収益を期待しているが、新しいサービスとソリューションの導入が期待できるので、2019年も成長が見込める」と話している。



「セキュリティと情報化を提供する技術の進歩により、2019年の成長が見込むことができる」

NWセキュリティ・グループ
技術部長ケヴィン・パウワ氏



「政府のユーザは、施設へのアクセスを保護するためにセキュリティを購入している」

アイデアル・インフォメーション社
運営&保守点検主席
アーメド・マタリ氏



「当社はレバノン、イラク、ナイジェリアで活動している。テロの脅威によりセキュリティの必要性が高まっている」

ガーディア・システムズ社
CEO ジョド・モンラ氏

欧州

欧州では、2016年のニースでのトラック攻撃や2017年のロンドン橋攻撃などの事件があった中で、依然セキュリティは最重要課題だ。その結果、セキュリティ・ソリューションの需要は次々と出てくる。

「需要は主に反応によって生まれる。何かが起こると映像監視が解決策となる。これは、映像監視やセキュリティ・サービスの調達時期としては必ずしも適切ではないが、企業が当社に連絡する重要な時期だ。」

さらにエンドユーザは、セキュリティ以外のアプリケーションにセキュリティ・システムを使用してビジネス情報化を高め、効率性とユーザ・エクスペリエンスを向上させている」と英国NWセキュリティ・グループ技術部長ケヴィン・パウワ氏は述べている。

同氏はその実例として、物流と輸送、レジャーと観光、そして製造分野を挙げている。「一般的にこれらの分野での当社の仕

事は、協力企業間での継続的な運用の変更と拡大によってもたらされる。優れたシステムはすぐに使用するだけでなく、顧客が受け入れて実装することを望む成果と効率を向上させる道を開く。当社は、セキュリティだけでなくビジネスにも大きな違いをもたらすソリューションを提供している」と語っている。

彼によれば、セキュリティがよりコモディティ化されるにつれて、ユーザのビジネス情報化を推進するソリューションが成長の鍵となる。

「これらの技術の価格設定は、商業的に現実的になりつつあるが、実際のセキュリティとビジネス情報化の利点を顧客に提供する技術革新により、2019年の成長が見込める」とパウワ氏は説明している。

その一方で、個人データのより厳格な処理を要求するGDPRは既に発効しており、セキュリティを処理するエンドユーザに影響を与えることが予想される。そのため、システム構築者はエンドユーザと共同で、セキュリティ・システムがGDPRに準拠していることを確認している。「2019年初頭にGDPRが導入されれば、業界でより高い水準がもたらされるだろう。これは当社が強く主張することだ。長期にわたって提供されるシステムはGDPRに確実に準拠する」とパウワ氏は話している。

APAC市場 規定により推進される セキュリティ

世界銀行の予測では、APAC(アジア太平洋地域)は成長市場で、地域経済はGDP成長率を今年4.1~6.9%の間で達成すると予想されている。これにより、エンドユーザはセキュリティに投資することができる。これは、地域の犯罪環境を考えると非常に必要だ。フィリピンに本拠を置くシステム構築企業HYEエンタープライズ社副社長ヴィンセント・サンディエゴ氏は次のように述べている。「今年の成長率は需要が増加しているため、2017年に比べて高くなる。今度はセキュリティが重要視され、2019年も成長を見込みたい」。





「法令遵守を求めることは、ユーザを鼓舞する上で鍵となる」

NKTech社技術部長
ソヴァン・ホック氏



「今度はセキュリティが不可欠で、2019年も成長を見込みたい」

HYEエンタープライズ社副社長
ヴィンセント・サンディエゴ氏

セキュリティは政府規制によっても促進される。例えば、フィリピンのCCTV無許可ルールは、ビジネス許可の申請や更新の前提条件として映像監視の導入を要求している。APACの多くの国では、特定の基準を満たす防火システムを設置するために新しい建物が必要だ。カンボジアに本拠を置くシステム構築企業NKTech社技術部長ソヴァン・ホック氏は次のように述べている。「規制に準拠させることは、ユーザがセキュリティへの投資を促す上で重要だ」。

おもてなしは、観光開発のための地域的な取り組みを考慮して、システム構築企業の主要収益源として挙げられている。世界旅行&観光協議会(World Travel and Tourism Council)によると、2017年の東南アジアの旅行および観光投資は総投資額の6.4%にあたる488億ドルで、2028年には868億ドルに達する見通しだ。カジノが建設されると、セキュリティ要求が惹起される。

ホック氏はホテルやカジノを主要な個別市場として挙げ、「これらの分野のエンドユーザの要求には、人々の活動の監視と記録と安全の証明が含まれている。当社は映像監視システム、アクセス・コントロール、照明の自動化、駐車場システムを提供している」と紹介している。

商業ビルはもう一つの主力市場だ。具体的には、APAC地域における建設ブームは、この分野での一層の成長を促進している。ホック氏は、「わが国では建設業の急速な成長が見込まれている。外国人投資家との建設産業の急成長により、今年の収益は2017年よりも高くなると予想している」と期待を寄せている。

まだある需要

実際、セキュリティは依然として企業にとって重要な構成要素だ。これは地域や業種に関係なく真実だ。特定のエンドユーザの実体は、いわゆるビジネス情報化やセキュリティ以外のアプリケーションにセキュリティ・システムを使用し始めているが、ほとんどの場合、依然として人や資産を保護するためにセキュリティ・システムを展開している。このことを念頭に置くと、セキュリティ業界は今後数年間にわたり成長を遂げると期待できる。





2018年に さらに上昇した成長 そして期待感のある 未来の基盤を提供

メモリー・リサーチ社発行「物理セキュリティ事業に関する2018年の年次報告書」によると、2018年の世界の物理セキュリティ製品の工場出荷価格の総額は2017年よりも7.5%増加して316億ドルだった。

●アラン・マッケール 著



メモリー・リサーチ社
取締役アラン・マッケール氏

2018年の市場規模は316億ドル

これは過去4年間のCAGR(年平均成長率)が6.9%で、過去10年間と比較してほぼ1%増加している。過去10年間に市場はCAGRが5.9%成長してきたが、3つの分野で見るとそれぞれで異なる成長率を示している。当社では、市場が今後5年間のCAGRが10.3%で、2023年に514億米ドルに達すると予測している。

2018年の具体的な売り上げの内訳は、176億ドルの映像監視製品が55.6%、75億ドルのアクセス・コントロール製品が23.6%、67億ドルの侵入検知システムが21%の割合だった。

映像監視製品は9.9%と最も高い成長率で、2017年に比べて4.4%の増加となった。しかし、これは主に「底辺争い」の結果であり、中国以外のメーカーにとっては全く良い年ではなかった。この数字は過去5年間の平均成長率と同水準に過ぎない。

当社は市場の2023年までの5年間のCAGRを13.2%と予測している。この成長の大部分は、AI映像解析の売り上げが急増したことに起因し、2023年までにAI映像解析の売り上げが23億ドルに達する可能性があるとしている。映像分析を除いた成長率の下限は約8.5%と想定しているが、これには部品価格下落という条件付きでCAGR10%以上を達成する量産効果が必要だが、それでも中国メーカーの挑発的な価格設定は遥かに低い。

アクセス・コントロール製品は、IPネットワーク事業案件がさらに増加し、生体認証、個人管理、無線施錠システム、ACaaS(Access Control as a Service)がさらに進展することで、8%を若干上回る売り上げを達成すると予測した。これは、3つの分野の成長率のうち3年連続で最も高いと予想した。しかし、価格圧力がじわじわと押し寄せてきているという現象が幾つも

あり、そのため予測成長が減少してきたと判断した。参入企業は、これまでの事業実績を確保するために、オープン・スタンダードのサポートを躊躇しているように見受けられる。これは参入企業の長期的な未来を損なう可能性があり、中国メーカーが主導権を握り、目標としていた当分野での事業を強力に推進する道を開くことになる。

物理セキュリティ事業の原点とも言える侵入検知システムは、長年かけて成熟してきたが、レーダやサーマルカメラさらにマルチセンサ・カメラの使用が増加したことで、2018年には4.5%の成長に寄与している。無線化技術と映像監視、アクセス・コントロール、屋外照明などの統合は、成長に貢献している。

事業戦略に必要な5つの根本からの変更

業界に影響を与える要因は数多くあるが、当社では次の5点が事業戦略の根本的な変更だと考えている。

根本的な変更1

大手販売企業と何百もの小規模販売企業とのギャップが毎年広がり、この業界では、経済規模の最小値が急速に拡大している。現在、映像監視事業では、SMB(中小企業)市場の規模や納入先企業の事業状況を勘案してブランドに焦点を当てた戦略が必要だ。当社では、2023年の時点で企業5社が同時に複数の事業で繁栄するとは考えていない。

映像監視事業では、中国メーカー2社が最初はSMB事業をターゲットにして量を増やし今日に至っている。そして西側企業の次の階層の企業群は非常に広いので、この地位を逆転させることができるのは極めて困難に見える。それは価格だけで競合する西側企業でないことは確かだろう。

中国企業2社が、競合他社の利益率を引き下げて業界を混乱させるといった戦略を採用しながら、同時に市場を拡大し、急速に市場シェアを拡大している。つまり量が重要な要素で、映像監視カメラのコモディティ化が定着している現在、これは業界にとって非常に重要だ。

西側の大手メーカーの中には、利益を削減しなければならない一方で、シェアを拡大したサイバー攻撃に耐性のあるより高性能の製品を提供するために投資を続けることで、財務実績を改善している企業がある。ブランド構築は非常に重要な役割を持っているが、現在の状況ではブランド構築だけで中国メーカー2社による市場支配を変えるには不十分だ。

欧米の大手メーカー間の合併や買収は、それぞれの規模に合わせて可能な解決策と考えられているが、せいぜいギャップの拡大を遅らせることしかできないだろうと当社は判断している。エンド・ツー・エンドのソリューションを持つ強力なブランドは、多くの業種別市場に焦点を当てており、他のBAS(ビル自動化システム)サービスの企業と強力な提携関係を結ぶことが、ハードウェア販売企業にとって収益性の高い未来を確実にする唯一の選択肢だろう。

根本的な変更2.

物理セキュリティ市場で最も高い成長率とシェアを有する地域は中国とアジアだ。この地域は、販売/人数で測定した場合、物理セキュリティ機器の普及率が最も低く、現在の世界市場の28%を占めるが、その内訳を見ると映像監視事業が40%以上を占めている。そこで、西側メーカーは将来の成長のために最善の機会を提供すべきだ。これらの事実から言えることは、2023年に世界上位20位以内の企業になるために、この市場で大きなシェアを持つ必要があるということだ。

根本的な変更3.

ビルや公共の場所で人や資産の安全と安心を提供する物理セキュリティがサイバー犯罪のリスクが最も高いと認識されていることは皮肉なことだ。これは業界そしてとりわけ脆弱なリンクと接続している映像監視にとって最大で共通した脅威だ。

サイバー犯罪に対する高水準のセキュリティを保証することができる販売企業は、今日の企業向け事業において最も重要な購入基準を満たしている。脆弱な製品を売っている企業は市場シェアを低下させ、事業破綻に結びつく金銭的損害に直面することになる。したがって、特にスマートな建物にサイバー・セキュリティ・システムを導入する場合、物理セキュリティが大きな



な要因の1つになる。

根本的な変更4.

ソフトウェア・サービスは、過去5年間の物理セキュリティ事業の全ハードウェア製品の売り上げのほぼ2倍の成長を達成しているが、その割合はまだ12%に過ぎない。ソフトウェア・サービスは、急速にシェアを拡大し、

長年にわたり高い成長率の恩恵を受け続けることができる。その多くは、セキュリティ・センサ特に映像カメラから生成される膨大な量の情報を操作することから生じる。

メモリー社は最近、AI映像解析に関する報告書を発表した。本書では、AI映像解析を既存設備に適用する可能性が約650億ドルに達することを示している。このため、技術的な市場の可能性を最大限に引き出すためにAI映像解析を新規導入時に加え

る項目に追加した。2017年時点で映像監視製品の世界市場は159億ドルで、AI映像分析による推定収益は1億1500万ドルだった。これは、AI映像解析が、その年の全映像監視市場のほんのわずかしかなかったことを表している。当社では、市場への全ルートが十分に開発され、AIソフトウェアの低い性能により需要が制限されない限り、2022年までに約13%を占めると推定している。

根本的な変更5

統合とITへの収斂は、業界の3つの分野特に映像監視に10年近く影響を及ぼしてきたが、過去3年間にわたるIPネットワークとONVIFにより全ての分野の統合がより洗練され、また投資効果の高いソリューションをもたらした。

しかし、現在、IoTとビル内インターネットとによる統合が進んでいる。最終的にBlot(1つの双方向ネットワーク上のビル内全てのBASサービス)は、自動操縦で飛行し、人間の介入を必要としないオープンで包括的なソリューションを生み出す。現在では、関連する全てのデータ収集地点を表示できるように設計された高度な統合セキュリティ・システムを提供し、セキュリティ担当者が高度に複雑で複雑なビル情報を迅速にスキャンして直感的に理解できる。

また、上記4で紹介しているように、企業は現在工程を洗練し高速化して、ビッグデータで実験中だ。これにより、全てのBASサービスを提供する企業間での戦略的提携が形成され、市場導入の道筋に大きく影響を与えていて、実用化が間近だ。

本稿はメモリー・リサーチ社年次報告書「The Physical Security Business 2018 - 2023」第10版からの抜粋である。



AI映像解析は ルビコン川を渡った

映像解析は過去15年間に数多くタダ飯を食してきたが、映像解析に適用されている人工知能(AI)は、現在、映像監視事業において大きな進展をもたらすコース料理だ。

メモリー・リサーチ社取締役アラン・マッケール 著

しかし、これらの新しいソリューションは、積極的に投資してもらう前に、堅牢で費用効果が高いことを顧客に証明するために今もなお多くのことを行っている。しかし、残念ながらその中の幾つかのAIの顔認識製品は、完全なベータ・テストを済ませずに市場投入されており、その結果、相応の評価を得られず、またその未完成の原因も究明していない。

それにもかかわらず、膨大な量のデータを処理する際に使用されている新しい半導体アーキテクチャとインテリジェントな映像解析ソフトウェアと組み合わせて、セキュリティや人間や建物または企業の安全、安全性、パフォーマンスを向上させた。これにより映像監視エコシステムが大幅に強化された。

メモリー・リサーチ社発行の報告書「2018~2023年AI映像解析の世界市場」では、「ルビコン川を渡る」すなわち「運を天に任せたような行動」の背景にあるものを特定した。1つ目は、半導体アーキテクチャの大きな進歩により、従来の方法よりも何倍も高速にデータを処理および解析する「深層学習」と「機械学習」のアルゴリズムを強化したことで、より高速な処理を可能にした。

AI映像解析ソリューションは、「深層学習」アルゴリズムと「機械学習」アルゴリズムによって駆動しているが、現時点では新しいGPU半導体アーキテクチャで動作している。この理由は、コンピュータ・チップ・メーカーが、新しいアーキテクチャでAI半導体アプリケーションにとってはるかに優れた性能を発揮することができることを発見したからだ。この主導権は、現在AI半導体と解析ソフトウェア製品を開発している比較的小規模のチップ・メーカーが握っている。

ベンチャー投資企業は現在、これらの企業の資金調達に数十億ドルを投じている。当社では、AI映像解析ソリューションを提供するために、ハードウェアまたはソフトウェアにおいて何らかの方法で協力している世界中の128社を特定した。

しかし、この技術を開発して完成させるためには、新しい事

業プロセスそして人と革新への大きな投資が必要となる。本報告書では、既に何十億ドルが投資され、現在さらに開発が進んでいることを示している。この投資金額がすぐに干上がるという兆候はないようだ。

技術の完成とその後の市場投入に至るまでには現在も様々な試行錯誤が行われているが、新しいツールやプロセスによってAI製品が映像解析市場に導入される可能性が高まり、いざ導入時にはその性能と能力が革命をもたらすことになるだろう。

2018年には映像解析が従来のルールベース・システムで達成可能な範囲を遥かに超えると強く信じられている。新しいAIプラットフォームは、情報化された映像監視ソリューションを提供するために、機械学習と深層学習とのアルゴリズムと共に容量と能力を備えている。これにより、新しい事業案件だけでなく、何百万もの既存の映像監視システムを再構築する潜在的可能性が広がる。

AIソリューションを市場に投入するための実践的な側面は難しく、確立された流通経路と設置方法では多少修正する必要がある。

映像監視システムは膨大な量のデータを生成するが、悲しいことに現在はまだ利用されていない。しかし、建物や大学構内また市街地などで現在稼働中の数百万台の映像カメラやセンサーからの入力データが60%を占めると推定されている。そのため、データを大量に貯蔵している「実用化ダム」からこのデータを変換することで価値を最大化する可能性がある。これらの素材は既にその時期を待っている。

事業案件の映像監視ビジネスのうち最重要と位置づけられている幾つかの業種別市場では、既にAI映像解析ソリューションに非常に大きな投資を行っている。今後18ヶ月以内に成長曲線の変化点に達する可能性があるが、そこにはさらに大きな努力が必要となるだろう。

AI映像解析の世界市場

AI映像解析市場は時期尚早の段階にあることから、現在の市場規模を知ることができる統計はほとんどない。2017年のベータ・テスト製品を含むAI映像解析の全世界市場での売り上げは約1億1,500万米ドルで、そのほとんどが中国に導入されていると推測している。

2017年における従来のルールベース・システム市場は約2億5,000万ドルで今後倍増すると考えている。しかし、AIシステムの出現に伴い、AI映像解析が映像解析事業のシェアを引き継ぐことで、今後3年間でその規模は縮小すると思われる。

2017年におけるVMS(映像管理ソフトウェア)の年間売上高は14億ドルで、2022年末までに31億ドルに達すると予測されている。そして2022年までにはAI映像解析の売り上げがVMSの売り上げに追いつくと予想している。そして2022年以降AI映像解析市場は、少なくともさらに20年間急成長を続けるだろう。

図1では、2022年までのAI映像解析の需要を予測している。これは、2017年の売り上げ1億1,500万ドルから、今後5年間で90%のCAGR(年平均成長率)で成長し、2022年には31億ドルの売り上げに達すると予測している。これは大胆な予測と思われるかもしれないが、当社では現実的だと考えている。これを現実化するためには、今後18ヶ月以内にエンドユーザーが命題を購入するまでの間に開発協力を充分に尽くして、AI映像解析を継続する必要がある。

この試算は、2017年の世界人口6億人規模の映像カメラの導入モデルを基にしている。住宅市場を除いて、AI映像解析システムをすぐに設置することが考えにくい小規模の建物を考慮に入れている。また、



既存の映像監視の再構築と新規設置の両方による売上収益を考慮に入れている。

当社は、既存設備にAI映像解析を導入するための市場の潜在規模を約650億ドルと見積もっており、これが全て導入されるまでに最大30年かかると想定している。このため、市場

の可能性を最大限に引き出すためにAI映像解析を新規導入するコストを追加している。

これらの数値は、当社の試算した最大値の見積もりを過ぎないが、AI映像解析市場の潜在的な規模を判断するための判断材料として提供している。

2017年、映像監視製品の世界市場は159億ドルであり、AI映像解析による推定収益は1億1500万ドルだった。これは、AI映像解析がその年の全映像監視市場のほんのわずかしき占めていないことを説明している。

今後12ヶ月以内に市場への全ての導入経路が十分に開発され、AI映像解析製品が利用可能となり、顧客の要求を満たす評価を得られれば、2022年までに映像監視市場の約13%を占めると見積もっている。

出典:メモリー・リサーチ社報告書「2018~2023年AI映像解析の世界市場」

<https://www.memoori.com/portfolio/global-market-video-analytics-2018/> 



世界セキュリティ企業 上位50社

| 2018年 順位 | 2017年 順位 | 企業名 | 本社所在国 | 主要製品 |
|-------------|-------------|------------------------------|--------|--------------|
| 1 | 1 | Hikvisionデジタル・テクノロジー | 中国 | 複合 |
| 2 | 3 | Dahuaテクノロジー | 中国 | 複合 |
| 3 | 4 | アッサ・アブロイ | スウェーデン | アクセス・コントロール |
| 4 | 2 | Boschセキュリティ・システムズ | ドイツ | 複合 |
| 5 | 5 | アクシス・コミュニケーションズ | スウェーデン | 複合 |
| 6 | 6 | FLIRシステムズ | 米国 | 映像監視 |
| 7 | 9 | Allegion | 米国 | アクセス・コントロール |
| 8 | 8 | Hanwha テックウィン | 韓国 | 映像監視 |
| 9 | 11 | Tiandyテクノロジズ | 中国 | 映像監視 |
| 10 | 12 | Avigilon | カナダ | 複合 |
| 11 | 10 | アイホン | 日本 | アクセス・コントロール |
| 12 | 13 | Infinova | 米国 | 映像監視 |
| 13 | 21 | オプテックス | 日本 | 侵入検知 |
| 14 | 16 | VIVOTEK | 台湾 | 映像監視 |
| 15 | 17 | CPプラス | インド | 映像監視 |
| 16 | 15 | TKHグループ | オランダ | 複合 |
| 17 | 14 | Nedap | オランダ | 複合 |
| 18 | - | Raysharp | 中国 | 映像監視 |
| 19 | 20 | マイルストーン・システムズ | デンマーク | 映像監視 |
| 20 | 22 | Kedacom | 中国 | 映像監視 |
| 21 | 23 | KOCOM | 韓国 | ホーム・オートメーション |
| 22 | 18 | Commax | 韓国 | ホーム・オートメーション |
| 23 | 24 | タムロン | 日本 | 映像監視 |
| 24 | 26 | Napcoセキュリティ・システムズ | 米国 | 複合 |
| 25 | 19 | IDIS | 韓国 | 映像監視 |
| 26 | 27 | TVT デジタル・テクノロジー | 中国 | 映像監視 |
| 27 | 25 | MOBOTIX | ドイツ | 映像監視 |
| 28 | 31 | DynaColor | 台湾 | 映像監視 |
| 29 | 29 | Wanjiaanインタコネクテッド・テクノロジー | 中国 | 映像監視 |
| 30 | 30 | Suprema | 韓国 | アクセス・コントロール |
| 31 | 28 | Fermax | スペイン | ホーム・オートメーション |
| 32 | 33 | Synectics | 英国 | 映像監視 |
| 33 | 34 | Identiv | 米国 | アクセス・コントロール |
| 34 | 32 | GeoVision | 台湾 | 映像監視 |
| 35 | 36 | Zenoテクノロジー | 中国 | 映像監視 |
| 36 | 40 | Costarテクノロジズ | 米国 | 映像監視 |
| 37 | - | DSSL | ロシア | 映像監視 |
| 38 | 39 | C-PROエレクトロニクス | 韓国 | 映像監視 |
| 39 | 38 | IndigoVision | 英国 | 映像監視 |
| 40 | 46 | INCON | 韓国 | 映像監視 |
| 41 | 42 | Hitronシステムズ | 韓国 | 映像監視 |
| 42 | 43 | Viconインダストリーズ | 米国 | 映像監視 |
| 43 | 49 | ITXセキュリティ | 韓国 | 映像監視 |
| 44 | 47 | ACTi | 台湾 | 映像監視 |
| 45 | 48 | Hi Sharpエレクトロニクス | 台湾 | 映像監視 |
| 46 | 45 | Magalセキュリティ・システムズ | イスラエル | 侵入検知、複合 |
| 47 | 41 | EverFocusエレクトロニクス | 台湾 | 映像監視 |
| 48 | - | Thruvision グループ(前デジタル・バリアーズ) | 英国 | 映像監視 |
| 49 | 37 | AV TECH | 台湾 | 映像監視 |
| 50 | 50 | HUNTエレクトロニック | 台湾 | 映像監視 |

| | 2017年売上額 (百万US\$) | 2016年売上額 (百万US\$) | 売上伸び率 (2016年対比) | 粗利益額 (百万US\$) | 利益率 | 2017年利益額 (百万US\$) |
|--|----------------------|----------------------|--------------------|------------------|---------|----------------------|
| | 5,364.08 | 4242.52 | 26.4% | 1,361.09 | 25.4% | 1,235.1 |
| | 2,680.58 | 1896.03 | 41.4% | 375.85 | 14.0% | 338.1 |
| | 2,311.33 | 2084.12 | 10.9% | | | |
| | 2,087.76 | 1964.25 | 6.3% | | | |
| | 967.24 | 830.41 | 16.5% | 501.33 | 51.8% | 82.7 |
| | 777.21 | 772.49 | 0.6% | | | |
| | 505.72 | 447.60 | 13.0% | | | |
| | 492.64 | 541.17 | -9.0% | 214.96 | 43.6% | |
| | 448.92 | 344.76 | 30.2% | 172.15 | 38.3% | |
| | 408.63 | 353.62 | 15.6% | 211.01 | 51.6% | 28.3 |
| | 386.68 | 375.89 | 2.9% | | | 13.1 |
| | 258.39 | 255.19 | 1.3% | 18.02 | 7.0% | 18.1 |
| | 182.97 | 170.74 | 7.2% | | | 29.0 |
| | 173.79 | 151.51 | 14.7% | 120.78 | 69.5% | 11.0 |
| | 170.76 | 133.67 | 27.7% | 10.62 | 6.2% | 6.6 |
| | 165.93 | 163.81 | 1.3% | | | |
| | 163.89 | 149.30 | 9.8% | | | 30.4 |
| | 132.48 | 77.35 | 71.3% | 12.06 | 9.1% | 10.6 |
| | 128.35 | 103.29 | 24.3% | 35.84 | 27.9% | 17.0 |
| | 123.62 | 97.42 | 26.9% | | | |
| | 121.41 | 96.63 | 25.6% | 30.40 | 25.0% | |
| | 119.00 | 111.01 | 7.2% | 28.77 | 24.2% | 7.8 |
| | 101.37 | 92.05 | 10.1% | | | |
| | 87.37 | 82.51 | 5.9% | 29.58 | 33.9% | 5.6 |
| | 79.45 | 90.54 | -12.2% | 24.22 | 30.5% | |
| | 74.28 | 74.92 | -0.8% | 2.76 | 3.7% | 2.9 |
| | 70.95 | 86.22 | -17.7% | | | -6.80 |
| | 69.82 | 62.33 | 12.0% | 24.47 | 35.0% | 9.0 |
| | 67.63 | 64.40 | 5.0% | 8.53 | 12.6% | 7.5 |
| | 64.22 | 61.66 | 4.2% | 29.71 | 46.3% | |
| | 60.97 | 62.95 | -3.1% | 34.67 | 56.9% | 34.7 |
| | 57.01 | 59.75 | -4.6% | 5.25 | 9.2% | |
| | 56.40 | 52.91 | 6.6% | 22.16 | 39.3% | |
| | 50.11 | 60.14 | -16.7% | 17.79 | 35.5% | -6.3 |
| | 45.99 | 47.28 | -2.7% | 3.42 | 7.4% | 3.1 |
| | 44.27 | 38.56 | 14.8% | 17.84 | 40.3% | -0.4 |
| | 43.78 | 29.54 | 48.2% | 17.81 | 40.7% | 9.5 |
| | 43.14 | 41.51 | 3.9% | 7.67 | 17.8% | 0.4 |
| | 42.33 | 45.92 | -7.8% | 22.77 | 53.8% | -2.9 |
| | 37.34 | 30.65 | 21.8% | 8.05 | 21.5% | |
| | 31.88 | 34.90 | -8.7% | -0.02 | -0.1% | |
| | 26.65 | 35.76 | -25.5% | 10.15 | 38.1% | |
| | 26.38 | 20.80 | 26.8% | 7.06 | 26.8% | 0.4 |
| | 24.49 | 30.13 | -18.7% | 11.53 | 47.1% | 2.1 |
| | 23.78 | 24.07 | -1.2% | 4.91 | 20.7% | 0.3 |
| | 22.30 | 32.37 | -31.1% | 0.24 | 1.1% | |
| | 17.93 | 36.02 | -50.2% | 4.94 | 27.5% | -3.3 |
| | 16.25 | 30.3 | -46.4% | -17.54 | -107.9% | |
| | 12.21 | 21.16 | -42.3% | 6.20 | 50.8% | 0.5 |
| | 8.61 | 13.36 | -35.6% | 1.65 | 19.1% | -2.1 |

今さら聞けないアクセス・コントロール

フリーライター 宮本 大和



新年あけましておめでとうございます。今回は電気錠を中心に解説をします。

北米や欧州ではワイヤレスの電気錠が普及期に入っています。

カードリーダーと一体型電気錠はロングライフ・バッテリーの採用で実用的となり、しかも配線が不要で工事費用を抑制します。残念ながら日本の電気錠メーカーには小規模な自己完結型のクローズドな製品しか存在しない状況です。しかし、海外製品は電波法との関係から国内で利用する事は事実上不可能です。

その様な状況で最良のインタフェイスはPoEによるロックか

RS-485となります。PoEロックやRS-485ロックの場合は電力も同時供給できますので、メンテナンスが簡易なことから最も注目されるべきソリューションと考えます。

PoEロックの選択可能モデル

ネットワークを電力と通信の両方に使用するインテリジェントなCorbin RusswinおよびSARGENT PoEロックを設置すると、ハードウェアと設置の両方で節約できます。これらのアッサ・アブロイ社PoEロックはオンライン・ロックで、常にIPを介してSynergis Cloud Linkに接続され、リアルタイムでイベントをアップロードして設定をダウンロードします。

この構成により非常にシンプルな構築が可能になります。1台のSynergis Cloud Link (SCL)に対して128台のIPロックが接続可能です。SCLを複数接続して拡張します。バッテリーをバックアップする場合はPoEをUPSに接続するだけです。

国内の電気錠をPoE駆動する場合は前回に解説したように下記の様な構成となります。

図1)の例ではリーダー・ドア・パネルにマーキュリー社製MR51eを使用し上位EPパネル、SCLを経由してSecurity Center Synergisに接続されます。EPパネルなどのメイン・コントローラを必要としない構成としてはHID社VertX V100をSCLに接続可能です。



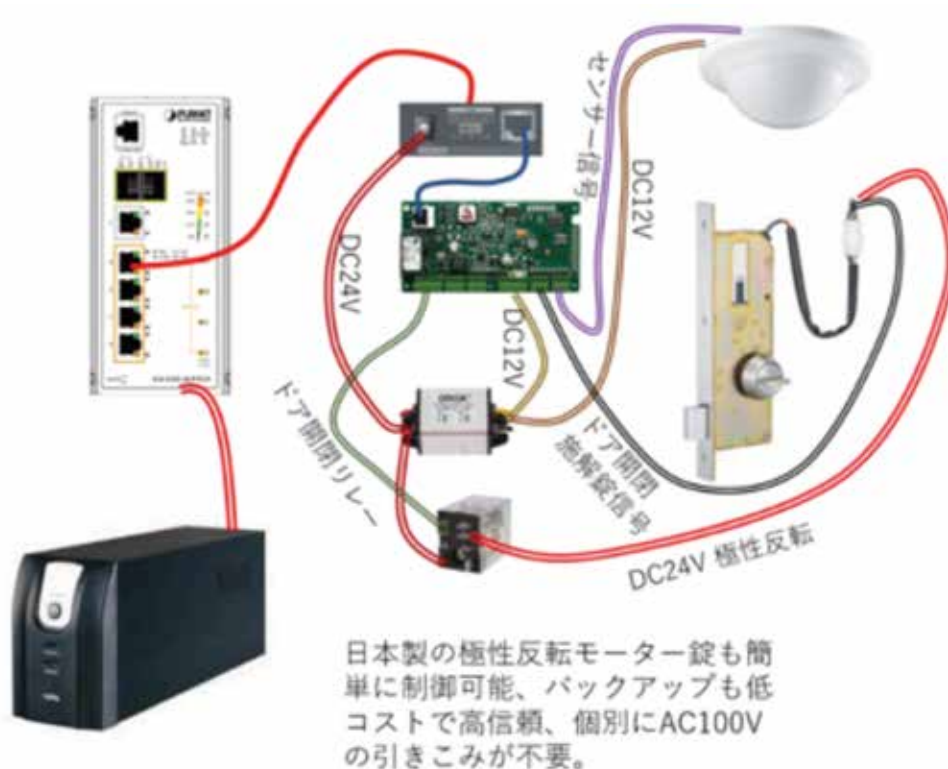


図1

リーダ・コントローラー体型でPoE駆動する場合

単純にPoE給電するだけですが、電気錠の選定に制限がある事を理解する必要があります。PoE+で供給した場合は右記の通りです。

Wet Output (@12VDC) 6.9W (580mA @ 12VDC)

Wet Output (@24VDC) 8.6W (360mA @ 24VDC)

美和ロック社製品では24VDC 300mA(±20%)が一般的でざりざりではありますが仕様内に収まります。

GOAL社製本締めモーター錠では24VDC 200mAとありますが、注意書きで(電源の容量は0.5A以上としてください。)とあります。

リーダ・コントローラー体型では電気錠までの距離が短いいため電力ロスはありませんが、突入電流は大きくなりがちです。ほとんどの場合は問題になりませんが、安定動作を確保するための考慮が必要になる場合もあります。

Ultra PoEによる60W給電

図1)ではUltra PoE スプリッタによりPoE+より遥かに強力で安定した電力を供給可能です。

RS-485ロック

Allegion Schlage AD-300シリーズ・ハード・ワイヤード・ロック

電源12 VDCまたは24 VDC

電圧範囲4 VDC~26 VDC

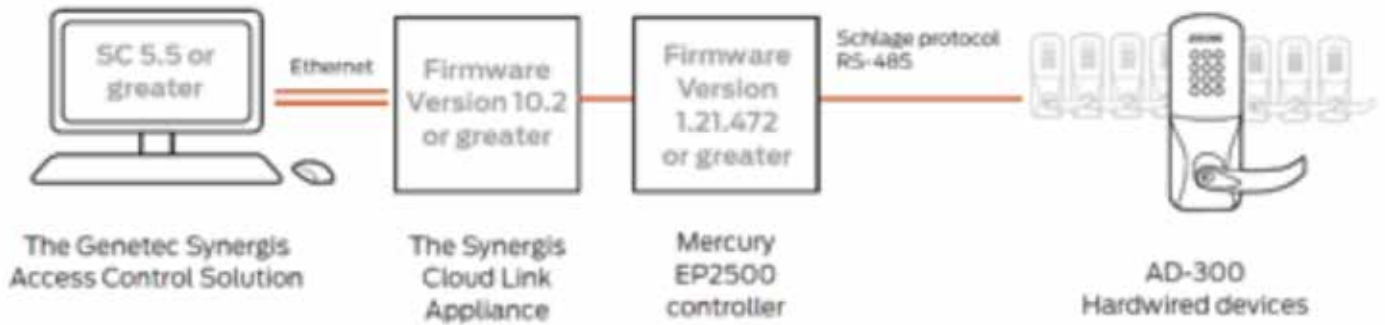
最大電流要件最大250 mA

電源18AWG、2芯のケーブル仕様(Belden 8760または同等品)

AD-300のケーブル距離:最大1000フィート(303 m)直径1mm 2P CPEV通信制御用ケーブルで300mまで給電と通信が可能となる。

低コストで入手が楽なCat5ケーブルを使うことも可能で、もちろん300mまで可能です。接続方法としてはT568B接続として1,2番 RS485(A)白橙、RS485(B)橙、電源は6,7,8を束ねて24V+茶、白茶、緑





3,4,5を束ねて24V-白緑、青、白青として利用します。ある程度の需要が見込めるならRJ45モジュラをそのまま使用することができる、電源供給機能付きのリピータHubを作ろうかとも考えています。現実的には不可能と判断している最大の理由は市場が変化を好まないからです。しかし、このフレーズに「問題がある、変化を好まない」のは供給者側であって、エンドユーザはそんなことは一切ありません。ご質問、コンサルが必要でしたらご遠慮なく下記へメールいただければと思います。
info@synergis.tokyo

最後に宣伝を。16カメラ・ライセンスと16カードリーダー・ライセンスが付いてGenetec社のアプライアンスで抜群のコストパフォーマンスを提供できます。

いまさら聞けないアクセス・コントロールの連載は今回をもって休止します。今後は時々ホットニュースや新技術についてスポットで書きます。次回からは「いまさら聞けないメディア・ス

トリーミング」を書いていきたいと考えています。

5G通信のコンテンツとしてオーディオ・ビデオはキラー・コンテンツとなることは絶対的なものです。そういう意味ではワイヤ系通信も高速化の道が拡大されるでしょう。2019年1月6日に工事を完了したNuro光ですが、下り900Mbps 上り400Mbps程度の速度を出しています。当然加入者の増大で低下するにしてもNTTフレッツでは経験したことのない速度です。

これらの高速性を活かせるのは単に高解像度をジャブジャブ使うのではなく、インテリジェンスなコンテンツが必要となってきます。例えば、YouTubeですがそれはオンデマンドを指していません、ライブ配信なのです。テレビ番組表を見て頂くとわかりますが、ドラマは録画したもの、ニュースはライブです。

つまり、ライブ放送とは時間軸に沿って配信する全てを指しているのです。私達はこれをプレイリスト配信と定義しています。詳細は <https://docokame.com> をご参照ください。



Streamvault SV-100E

All-in-one security appliance by Windows 10 IoT
16カメラ / 16カードリーダー ライセンス含むプリインストール

P/N SV-100E-2T-I3 256GB M.2 SSD / 2TB HDD ジャバテル価格 ¥334,100円

P/N SV-100E-1T-I3 256GB M.2 SSD / 1TB HDD ジャバテル価格 ¥325,400円

P/N SV-100E-2T-I3-ARC 256GB M.2 SSD / 2TB HDD ジャバテル価格 ¥264,200円

P/N SV-100E-1T-I3-ARC 256GB M.2 SSD / 2TB HDD ジャバテル価格 ¥255,700円

よくわかるIPネットワーク

株式会社ジャパテル 代表取締役 佐々木宏至

本稿は2019年1月3日に故郷の北海道で書いている。

昨年末はHuawei(華為技術:ファーウェイ)社の話題が圧倒だった、私たちのセキュリティそしてIT業界はHuawei Hisiliconチップなくして成立しない状況と言っている。米国がファーウェイ社を締め出した理由を「安全保障の脅威」と説明している。日本政府も追隨して、中国通信機器大手のファーウェイ社とZTE社製品を事実上排除する方針を固めたと報じられている。

Hisilicon Technologyとは、中国広東省深圳市にある半導体メーカー。2004年10月設立で、前身はファーウェイ社ASICデザインセンターで、HiSiliconで最も有名なチップKirinはファーウェイ社製スマホの根幹であり、外販をしないと徹底している。監視カメラ用のチップは全世界に数千万個以上供給され、200ドル以下のカメラはHiSiliconが事実上独占している。

つまり、国内に導入されているDahua社とHikvision社をはじめ、超低コストのカメラやNVR DVRのほとんどでHisilicon社製品を使用している。Dahua社やHikvision社の高価格帯の高性能製品ではアンバレラ社の採用が良く知られている。

Hisilicon社のチップは危険なのか？

私の個人的な考えではチップに危険性は無いと断言できる。問題はチップではなく、ファームウェアに問題があるのだ。Dahua社とHikvision社を除いた大半の無名メーカーはファームウェアを独自に開発する能力はない。それが証拠に大半の製品がONVIFに対応しているが、総じて実装状態がひどく、Profile Sと謳っていても眉唾物で、どれも同じ様な挙動を示す。ここで一番怖いことは、ノウハウの無い会社がNVRとIPカメラを提供してインターネットに曝すことだ。NVRをハッキングしてしまえばNVRもIPカメラもPoD攻撃の土台に変身させてしまうということだ。

よく勘違いしている話として、カメラ映像を覗かれる事を口にする人がいるが、愉快犯を除いて間違いだ。なぜならそこに価値など無いからだ。

もっとも重要なセキュリティ上の要はNVRをダイレクトにインターネットに曝してはいけないことだ。インターネットに曝したいのなら、最低でも最新のUpdateを実施している、Windows OSか有名ブランドのLinuxを推奨する。

なぜNVRを直接インターネットに曝してはいけないかピンと来ていないと思うので、少し詳しく解説する。組込NVRのOSはLinuxの比較的古いカーネルだ。このカーネルの脆弱性が第

一の要因だ。次は意図的なバックドアだ。組込OSは更新可能でもローダーそのものは更新が容易ではない。このローダーに仕掛けがあると絶望的だ。

バックドアとは何か、それは単純に裏口だ。秘密の裏口は秘密の呪文で開き、ルート権限を取得すればやりたい放題となる。

北米の政府関連調達ではHuawei社とHikvision社そしてDahua社製品の調達がシャットアウトされたことで、Hisilicon社製チップを採用したカメラもその対象となっているようだ。つまり、ブランドに関わらないのでOEMを含めた既存メーカーもその対応に追われているようだ。

昨年事実上破たんし買収されたアリコントヴィジョン社は独自ASICを使用している点で追い風が吹くかもしれない。

弊社ブランドの変更のお知らせ

ここで一つお知らせがある。Docokame (どこカメ)は従来ストリーミング用とセキュリティ用の二つを持っていた。今後はストリーミング用に限定し、セキュリティ用はeiROKU (エイロク)とネーミングした。

2019年はVSaaS市場の競争開始となるか？

VSaaS市場では、Alarm.com社、Arcules社、Eagle Eye Network社、OpenEye社、Qumulex社、Verkada社が良く知られている。日本に参入しているのはEagle Eye Networks社だけか？ Arcules社にはキャノンが出資していることは良く知られており、本格的な攻勢が始まると思う。

VSaaS市場と画像分析は相性が大変良く、画像分析の運用評価が優劣を決めるのではと考えている。

ナンバープレート読み取り

スタートアップのOpenALPR社(<http://www.openalpr.com/nvidia.html>)は、フリーミアム/オープンソースのLPR製品を開発した。同社はオープンソース・サイド・プロジェクトとして始まり、この創設者/開発者のシナリオは、セキュリティ業界では一般的ではないが、より消費者向けの新興企業としては一般的だ。セキュリティ業界でこの種のスタートアップを見ることは、全体として良い兆候だ。

弊社のeiROKU (エイロク)は上記のOpenALPRを正式にサポートすることを決定した。NVIDIAのCUDAを使用したOpenALPRでは4K画像においても0.3秒程度でレスポンスして、くる高速性と高精度OCR技術と相まって抜きんでた読取精度を提供する。

eiROKU (エイロク)の紹介

本製品は、高品質で効率的なビデオ監視のための最先端の機能をすべて備えている。

【カメラソース処理】

- 互換性任意のウェブカメラのWiFi無線のCCTVカメラを含むアナログカムおよびIPカメラをサポート(H.264、H.264+、H.265、H.265+、JPEG / MJPEG、MPEG-4、魚眼レンズ、PTZおよびONVIF、無線カム、つまり有線と無線の両方のCCTVに最適)
- 任意の解像度(Mpix)
- PTZツーリング(ガードツアー)
- 全てのモニタから同時にスクリーン・キャプチャ
- 調整可能な音質と音量
- 1台のコンピュータに最大2000台のカメラを接続
- ライセンスに使用可能なソフトキーとハードウェアキー
- eiROKU: Windows、Mac OS X、およびLinux(Mint、Ubuntu、Debian、CentOS、およびopenSUSEディストリビューション)用の直感的なインタフェイスを備えたcctvソフトウェア
- eiROKU cctvソフトウェアの柔軟な設定

【簡単にできるプロの監視】

- サーバ部分とクライアント部分の間のTLSセキュア接続
- IPv4およびIPv6アドレスのサポート(カメラ、クライアントとサーバ間の接続など)
- WindowsおよびLinux用のハードウェア・アクセラレーションCUDA(Nvidiaグラフィック・カード)およびQuickSync(Intel)
- フェイルオーバーのサポート:メイン・サーバに障害が発生した場合のバックアップ・サーバへの自動切り替え
- クイック・セットアップ:モジュールのグループ設定
- デバイス・リストによるカメラのクイック・ナビゲーションと制御
- eiROKUクラウド・サービス
- eiROKU Pro:通常のeiROKUに対する専門的拡張
 - ・eiROKU Proの設定ファイルでカメラ、モジュール、スキームを設定
 - ・Webサーバを使用してeiROKU cctvソフトウェア・サーバの監視ネットワークを作成
 - ・あらゆるサイズの映像監視用のマルチ・サーバおよびマルチ・クライアント接続アーキテクチャ
 - ・アクセス権(ユーザ権限)の柔軟な設定
 - ・設定のパスワード保護

- ・フルスクリーン表示
- ・複数モニタの操作
- ・PTZ制御のサポート
- ・360度カメラ画像回転
- ・音検知器
- ・カメラ画像のインスタントスクリーンショット
- ・eiROKU:カメラのグループ化と簡単なナビゲーションのための便利なデバイスリストを備えたcctvソフトウェア

【知的モジュールと機能】

- 自動ナンバープレート認識(ANPR)
- 魚眼レンズカメラの画像の歪み補正
- 多層eMap - インタラクティブカメラを搭載したビデオ監視サイトの地図
- 顔検出器
- 動いていなくても物体を追跡する物体検出器
- 無人のアイテムを検出するために放棄されたオブジェクトの検出器
- 煙探知器
- カメラのSDカードとの同期
- レジスタとの同期(POS)
- ヒートマップ
- LDAPアクティブ・ディレクトリ同期
- HTTPリクエスト送信者とHTTPスイッチャ・モジュールによる簡単なホーム・オートメーション・システム統合
- eiROKU Pro を使用して独自のクラウド映像監視サービスを作成する可能性
- あなたが記録することになっていない領域、または顔をぼかすためのプライバシーマスキング
- 来場者カウンター
- 動きの方向も検出するクロスライン検出器
- ズームによる自動物体追跡(PTZ追跡)および移動物体の視覚化
- 問題が検出時に通知するサボタージュ検出器
- ブラウザでもPTZコントロール
- リモート(HTTPスイッチャ)とローカル(ボタン・スイッチャ)のチェーンのクイック・オン/オフ
- アーカイブ・イベントでモーション・イベントを時間または特定の地域で検索
- RTSPおよびHTTPブロードキャスト:MJPEG、JPEG、H264などでストリーミングされているIPカメラのエミュレーション
- Android、iPhone、iPadおよび他のデバイスで利用可能

なモバイル・ビュー!

【リモート・アクセス】

- モバイル・デバイスを介したリモート・ビュー(Android、iPhone、iPadをサポート)
- 音声付きの全カメラのオンライン表示
- 設定、アーカイブ、カメラへのフルリモートアクセス
- インターネット放送
- あなたのサイトにカメラの画像を埋め込む可能性
- 動的IPアドレスでもリモート・アクセス
- Webブラウザでのアーカイブの表示
- 動きと光検出器を備えたeiROKU cctvソフトウェア

【動き検出器】

- 動きを監視するための任意のサイズおよび形状のゾーンの設定
- 最後に検出された動きの時間がプレビューに表示される、視覚的な動き検出
- 無視する最大オブジェクト・サイズとセンサの感度レベルの設定
- モーション検知に先行する数秒間を保存するための事前記録オプション
- イベント終了後も記録を続けるポストレコード
- 記録遅延
- ペットや天候の変化による誤警報を防ぐための拡張アルゴリズム
- eiROKU: 便利なアーカイブ、内蔵プレーヤー、リアルタイム表示を備えたcctvソフトウェア

【アーカイブ】

- ループ・レコーディング
- アーカイブの最大サイズとアーカイブに保存された画像の圧縮率の調整可能
- アーカイブを異なるHDD、RAIDに保存する可能性
- ネットワーク接続ストレージ(NAS)、Googleクラウド・ディスクなどのサポート
- モーション・イベントまたは特定の時間を検索する、ユーザ・フレンドリな内蔵メディアプレーヤー
- 選択した抽出物をビューアから直接エクスポートする
- ビューアからの不要な抽出物の削除
- 時間と選択した領域でモーション・イベントを検索する
- 幾つかのアーカイブの同時同期ビュー
- ジャストインタイムで届く通知: Android、iPhone、iPadおよびその他のデバイスで利用可能なモバイルビュー

【通知と反応】

- テキストメッセージ(SMS)送信
- 電子メール通知(添付のJPEG画像およびMJPEGビデオ付き)
- イベントトリガーポップアップウィンドウ
- 警報音
- 指定された外部プログラムの実行
- 音声付きの画像や映像のFTPサーバ・アップロード
- サイクリック録画で指定したパスにファイルを保存する
- eiROKU: カメラのグループ化と簡単なナビゲーションのための便利なデバイス・リストを備えたcctvソフトウェア
- 全てのハイデマンド機能
- 仕事の隠しモード
- WEBM(VP8とVP9)、MPEG-4、MP4とMJPEGビデオフォーマット
- マーキング(埋め込まれた日時、カスタム・テキスト、GPS座標、またはカメラのストリーム上の画像スタンプ)
- スケジューラ、システムのコンポーネントが作業を開始/終了する時期を設定
- プレビュー・モードで調整可能な音量
- クイック・セットアップ: チェーンの複製
- 調整可能なプレビュー・モード(カメラのレイアウト、ウィンドウの透明度、フォント)
- リアルタイム画像の自動スライドショー
- ワンクリックで簡単なアップデート
- 新バージョン通知
- eiROKU: カメラのグループ化と簡単なナビゲーションのための便利なデバイス・リストを備えたcctvソフトウェア

【eiROKUの利点】

- Windows、Mac OS X、LinuxおよびAndroidでのフル機能
 - 無料ダウンロードのフル機能のトライアル版(デモ版)は複数回使用でき、使用時間制限のない無料版(無料版は時間制限)
 - デフォルト設定でダウンロードした後すぐに使えるようにする
 - インストール不要
 - 管理者権限は必要ありません
 - 簡単な追加設定
 - 子供の建築セットのように柔軟な制御
 - 革新的な直感的なグラフィカル・インタフェース
- 最後に、ここで紹介したeiROKU cctvソフトウェアは、ユーザがその可能性を最大限に引き出すのを助けるために本当に有用なヒントを持っていることを付け加えさせていただく。そして、皆様にとって本年も良い年でありますように。



2019年1月

INTERSEC

会期:2019年1月20日～22日
会場:ドバイ・ワールド・トレード・センター
P.O. Box 9229, Dubai, United Arab Emirates
アラブ首長国連邦 ドバイ
主催:Messe Frankfurt
URL: <https://www.intersecexpo.com/frankfurt/51/for-exhibitors/for-exhibitors.aspx>

2月

東京デジタルイノベーション

会期:2019年2月19日～20日
開場:10:00 - 17:00
会場:ザ・プリンスパークタワー東京
主催:日経BP社
URL: <https://nkb.jp/dinv>

国際ホテル・レストラン・ショー (HOTERES JAPAN)

会期:2019年2月19日～22日
開場:10:00 - 17:00
会場:東京ビックサイト
主催:日本能率協会/一般社団法人日本ホテル協会/一般社団法人日本旅館協会/一般社団法人国際観光日本レストラン協会/公益社団法人国際観光施設協会
URL: <https://www.jma.or.jp/hc/>

3月

SECURITY SHOW 2019

会期:2019年3月5日～8日
開場:10:00 - 17:00
会場:東京ビックサイト
主催:日本経済新聞社
URL: <https://messe.nikkei.co.jp/ss/>

リテールテックJAPAN 2019

会期:2019年3月5日～8日
開場:10:00 - 17:00
会場:東京ビックサイト
主催:日本経済新聞社
URL: <https://messe.nikkei.co.jp/rt/>

ライティング・フェア2019

会期:2019年3月5日～8日
開場:10:00 - 17:00
会場:東京ビックサイト
主催:日本経済新聞社
URL: <https://messe.nikkei.co.jp/rt/>

左記3月開催の3つのイベントへの出展は、ASJ合同会社も取り扱っております。
TEL・03-6206-0448
E-MAIL・komori@asj-corp.jp

4月

第22回 組込みシステム 開発技術展

会期:2019年4月10日～12日
開場:10:00 - 17:00
会場:東京ビックサイト 西1-4
主催:リードエグジビション ジャパン
URL: <https://www.japan-it.jp/ja-jp/about/ese.html>

ISC WEST

会期:2019年4月10日～12日
開場:10:00 - 17:00
会場:Sands Expo Center
米国ネバダ州ラスベガス
主催:Reed Exhibitions
URL: <http://www.iscwest.com>

SECUTECH INDIA

会期:2019年4月25日～27日
開場:10:00 - 17:00
会場:BEC インド共和国ムンバイ市
主催:ABEC Exhibitions & Conferences, MESSE FRANKFURT NEW ERA BUSINESS MEDIA LTD.
URL: <http://secutechexpo.com/index>

5月

SECUTECH

会期:2019年5月8日～10日
会場:台北市南港国際展覽館
〒11568 台北市南港区経貿二路
主催:Messe Frankfurt New Era Business Media Ltd, Taiwan Branch
(香港商法蘭克福新時代傳媒有限公司台湾分公司)
8F, No. 288, Sec. 6, Civic Boulevard Xinyi District, Taipei 110, Taiwan
(〒110 台湾台北市信義区市民大道6路228号8階)
TEL: +886 2 8729 1099
URL: <https://secutech.tw.messefrankfurt.com/taipei/en.html>

本イベントに関するお問い合わせは、ASJ合同会社までお願いいたします。
TEL・03-6206-0448
E-MAIL・komori@asj-corp.jp

クラウド コンピューティング EXPO【春】

会期:2019年5月8日～10日
開場:10:00 - 18:00
会場:東京ビックサイト 西1-4
主催:リードエグジビション ジャパン
URL: <https://spring.japan-it.jp/ja-jp/about/cloud.html>

データストレージ EXPO

会期:2019年5月8日～10日
開場:10:00 - 18:00
会場:東京ビックサイト 西1-4
主催:リードエグジビション ジャパン
URL: <https://spring.japan-it.jp/ja-jp/about/dse.html>

名古屋デジタルイノベーション

会期:2019年5月22日～23日
開場:10:00 - 17:00
会場:吹上ホール
主催:日経BP社
URL: <https://nkb.jp/dinv>

関西デジタルイノベーション

会期:2019年5月29日～30日
開場:10:00 - 17:00
会場:グランフロント大阪
主催:日経BP社
URL: <https://nkb.jp/dinv>

第14回 オフィスセキュリティ EXPO

会期:2019年5月29日～31日
開場:10:00 - 18:00
会場:東京ビックサイト 西1-4
主催:リードエグジビション ジャパン
URL: <https://spring.japan-it.jp/ja-jp/about/dse.html>

6月

九州デジタルイノベーション

会期:2019年6月18日～19日
開場:10:00 - 17:00
会場:福岡国際会議場
主催:日経BP社
URL: <https://nkb.jp/dinv>

7月

札幌デジタルイノベーション

会期:2019年7月18日～19日
開場:10:00 - 17:00
会場:札幌コンベンションセンター
主催:日経BP社
URL: <https://nkb.jp/dinv>

ネットワーク・システム上の注意点を分かりやすく解説してほしい

前号の本欄で触れていたが、セキュリティ業界特にネットワーク映像監視システムに従事している関係者のうち、マルウェアやバックドアについて基本から理解している方はどこまでいるのだろうか。先般セキュリティで問題があると指摘されている中国製ネットワークカメラをシステムで提供している業者に確認したところ、「今まで問題が無かったから大丈夫」とか「日本向け製品は対象外」とかの正鵠を捉えていない回答ばかりで信頼が置けなかった。従って、しかし、この業者がネットワーク上のセキュリティについてほとんど理解をしていないという結論に至った。そもそもパスワードすら出荷状態のまま平気で放置しているシステム構築業者が、セキュリティについて真剣に取り組む能力など持ち合わせていないと考えるべきだろう。

ならば、どうすれば良いかと考えると、そもそもネットワーク上のセキュリティを業者任せにしているユーザ側に問題があることに気付いた。業務利用であれ家庭利用であれ、パソコンのセキュリティはユーザ側で対処するのが一般的であることを思い浮かべれば、セキュリティ・システムにおいても、ユーザ側で対処するか対処を要請すべきでは無いだろうか。そこで、貴誌にお願いしたいのは、特集記事でも連載記事でも結構なので、基礎から分かるレベルからの解説記事を掲載していただきたいということだ。少なくともどのような脅威があり、どのように対処する良いかが分かるだけでも、セキュリティ監視システムのセキュリティを確保することができるだろう。そして、策を講じられないダメなシステム構築業者を駆逐することができ、最終的に業界のセキュリティに対する取り組み方をレベルアップさせることに繋がるだろう。

(東京 地方公務員)

サイバー・セキュリティから逃れる方法はあるのか？

今やネットワーク監視システムは、サイバー・セキュリティと縁を切って使うことができない。しかし、どんどん巧妙になってきているマルウェアやスパイウェアと常に対峙していることで、頭を痛めているセキュリティ産業従事者はかなりの人数に違いない。

このような状況の中、彼等が見出した方策がアナログHDの採用なのだろうか。扱い慣れた同軸ケーブルを使用しながらも高解像度映像を実現し、サイバー・セキュリティで悩むことから開放される。確かに映像データの活用範囲が記録性と再現性に限定している場合ならば、この方策も有効かもしれない。

しかし、ユーザが映像監視システムの活用レベルをその段階で留まっているという保証はない。ユーザからさらに難度の高い要求が寄せられた時、どのように対応するのだろうか。録画映像データを複写して別のシステムで使用するのだろうか。それでは効率が悪いし即時性にも欠ける。

結局は回り道して元の位置に戻ることになるならば、今から一歩ずつ確実にネットワーク監視システムとサイバー・セキュリティと取り組むことが最善の近道では無いだろうか。

(京都 システム構築)

「読者の声」を募集しています。

本誌では、セキュリティに関する読者の皆様のご意見やご提案を募集しています。セキュリティ機器やシステムを供給している側、セキュリティ・システムを既に導入あるいは導入を予定している側、いずれの側からの応募をお待ちしています。ただし、特定企業や団体または個人に対する誹謗中傷または批判的な内容をご遠慮ください。

一例を挙げると、導入する場合の手順はどのように進めれば良いのか。導入前の事前説明についてはどこに相談すべきなのか。メーカーなのか販売会社なのか、システム構築企業や設置施工企業なのか、それともセキュリティ・コンサルタント企業なのか。セキュリティに関する疑問や意見また提案など、セキュリティ関連であれば詳細は問いません。掲載する場合は匿名扱いとしますので、個人情報や漏洩することはありません。

なお、具体的な導入相談については、導入条件や環境についてできるだけ具体的な内容をご連絡ください。ご応募をお待ちしております。



a&s JAPAN編集部

TEL : 03-6206-0448

FAX : 03-6206-0452

MAIL : info@asj-corp.jp

secutech

2019年5月8 - 10日 台湾台北市
www.secutech.com

IoT&AIエコ・システムなど、 アジアのセキュリティが 一堂に集まる

7つのスマート・ソリューション展示

- スマート小売、スマート健康管理
- スマート・ホテル、スマート情報交換
- スマート工場、スマート輸送
- スマート駐車

7つのテーマ・ゾーン

1. AI + ソフトウェア・ゾーン
2. RFID応用ゾーン
3. LPWAN応用ゾーン
4. スマート施設ゾーン
5. サイバーセキュリティ・ゾーン
6. 警備設備ゾーン
7. スマート工場 & 産業用安全ゾーン



MOBILITY
powered by Secutech

- インテリジェント輸送システム向けアジアでの主要イベント
- スマート道路、スマート鉄道、スマート駐車から船団の管理まで幅広いソリューションの紹介

SM BIoT SOLUTION
powered by Secutech

- アジア初のスマート・ビルIoT市場分野のイベント
- 住宅、情報交換、介護、看護施設、商業ビルディング向けの代表的なソリューション


fire & safety
powered by Secutech

- 自然災害監視、安全都市、産業安全から個人安全までの様々な代表的なソリューション
- スマートな防災応用事例

info security
powered by Secutech

- IoT向け最新サイバー・セキュリティ・ソリューションの公開

日本での問い合わせ先
ASJ合同会社
TEL : 03-6206-0448
E-mail : komori@asj-corp.jp

 messe frankfurt